

第28回豊島廃棄物等管理委員会次第

日時 平成24年3月25日(日) 13:00

場所 マリンパレスさぬき 2階 瀬戸

I 開会

II 審議・報告事項

- 1 豊島廃棄物等処理事業の実施状況(報告)
 - (1) 豊島廃棄物等処理事業の実施状況
 - (2) 豊島廃棄物等処理事業の原単位表等

- 2 平成24年度の豊島廃棄物等処理事業年度計画等(審議)
 - (1) 基本計画(案)
 - (2) 年度計画(案)
 - (3) 各種調査の実施方針(案)

- 3 中間処理施設の定期点検整備結果(報告)

- 4 汚染土壌の水洗浄処理(報告)
 - (1) 汚染土壌水洗浄処理業務の現況
 - (2) 廃棄物等の掘削完了判定マニュアル等の改正について
 - (3) 直下土壌完了判定調査(概況調査)結果

- 5 処分地の維持管理等(報告・審議)
 - (1) 平成23年度末残存廃棄物等の把握方法
 - (2) 沈砂池1の濁度管理
 - (3) 廃棄物等性状調査結果
 - (4) 凝集膜分離装置の本格稼動
 - (5) 高度排水処理施設のキレート吸着処理工程の休止
 - (6) 西揚水井地下水等の現況

- 6 副成物の有効利用(報告)
 - (1) スラッグ置換率の変更等
 - (2) アルミニウムの選別方法の検討

- 7 豊島廃棄物等処理事業に係る外部評価(審議)
 - (1) 業務報告書
 - (2) 指摘・改善案とそれに対する改善方針等

- 8 その他(報告・審議)
 - (1) 環境計測、周辺環境モニタリング、作業環境測定結果
 - (2) 各種マニュアルの見直し
 - (3) 緊急時等の報告(正式評価)
 - (4) 健康管理委員会の審議概要

III 閉会

資料 28・Ⅱ / 1-1
平成 24 年 3 月 25 日

豊島廃棄物等処理事業の実施状況(平成 24 年 2 月未まで)について

1. 豊島廃棄物等の処理実績について

① 豊島廃棄物等の処理量

平成24年2月までの豊島廃棄物等の処理実績は、下表1-1及び1-2のとおりである。なお、直島の一般廃棄物は除いている。

表 1-1 (平成15～23年度)

(単位:t)

区分	平成15年度		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	試運転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)									
処理計画	-	35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	62,000	71,560	71,097	82,577	89,284
溶融炉処理計画		35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	59,000	63,860	64,890	465,670	59,115
キルン炉処理計画	-	-	-	-	-	-	3,000	7,200	6,000	16,200	5,420
直下土壌等処理計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	24,650
岩石等特殊処理計画	-	-	-	-	-	-	-	500	207	707	99
月間処理実績(中間処理)	14,629	11,979	53,079	53,945	52,197	54,210	60,504	70,015	74,742	445,300	63,375
溶融炉処理実績	14,539	11,933	52,243	53,186	51,261	53,183	58,983	66,130	68,653	430,111	58,403
キルン炉処理実績	90	46	836	759	936	1,027	1,521	3,885	6,089	15,189	4,972
うち、仮置土処理実績	-	-	-	-	-	-	(621)	(2,690)	(4,410)	(7,721)	(3,285)
直下土壌等水洗浄処理実績	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
岩石等特殊前処理	10	63	219	81	24	17	93	138	201	846	252
処理量合計 ①	14,639	12,042	53,298	54,026	52,221	54,227	60,597	70,153	74,943	446,146	63,627
掘削対象外土壌量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
非汚染土壌量 ②	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
地下水浄化対象土壌量 ③	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
合計 (①+②+③)	14,639	12,042	53,298	54,026	52,221	54,227	60,597	70,153	74,943	446,146	63,627
溶融炉処理量/溶融炉処理計画量		74.7%	87.1%	88.6%	85.4%	85.1%	100.0%	103.6%	105.8%	92.4%	98.8%
キルン炉処理量/キルン炉処理計画量		-	-	-	-	-	50.7%	54.0%	101.5%	93.8%	91.7%
合計/全体量		4.0%	5.9%	6.0%	5.8%	6.0%	6.7%	7.8%	8.3%	49.3%	7.0%
処理量(m ³)										320,357	31,554
累計(暫定) 平成24年2月末 まで										482,577	89,284
										465,670	59,115
										16,200	5,420
										0	24,650
										707	99
										445,300	63,375
										430,111	58,403
										15,189	4,972
										(7,721)	(3,285)
										0	0
										846	252
										446,146	63,627
										0	0
										0	0
										0	0
合計										446,146	63,627
溶融炉処理量/溶融炉処理計画量										92.4%	98.8%
キルン炉処理量/キルン炉処理計画量										93.8%	91.7%
合計/全体量										49.3%	7.0%
処理量(m ³)										320,357	31,554
累計(暫定) 平成24年2月末 まで										482,577	89,284
										465,670	59,115
										16,200	5,420
										0	24,650
										707	99
										445,300	63,375
										430,111	58,403
										15,189	4,972
										(7,721)	(3,285)
										0	0
										846	252
										446,146	63,627
										0	0
										0	0
										0	0
合計										446,146	63,627
溶融炉処理量/溶融炉処理計画量										92.4%	98.8%
キルン炉処理量/キルン炉処理計画量										93.8%	91.7%
合計/全体量										49.3%	7.0%
処理量(m ³)										320,357	31,554
累計(暫定) 平成24年2月末 まで										482,577	89,284

1) 処理量合計＝中間処理施設における処理実績＋直下汚染土壌等水洗浄処理実績＋岩石等特殊前処理(水洗)

2) 平成23年度の処理量は、直島一般廃棄物受入量のデータに前年度実績を使用しているため、暫定の数値である。

3) 直下土壌等処理には、重金属のみに汚染された覆土を含む。

4) 直下土壌等処理のうち、中間処理施設にて溶融処理を要するダイオキシン等が完了判定基準を超過した汚染土壌は中間処理の溶融炉処理実績に含む。

5) 直下土壌等処理のうち、掘削対象外土壌量は、完了判定の基準を満たした土壌量は非汚染土壌量に、また、地下水等の浄化対策で処理を要するVOCsが第二溶出量

基準以下の汚染土壌は地下水浄化対象土壌量としている。これらの土壌量は公害等調整委員会の調査結果に基づき対象面積、深度、密度から推計。

6) 23年度処理量(m³)は、平成23年11月に実施した簡易測定(光波測定)による。

表 1-2 (平成23年度)

(単位:t)

区分	平成22年度 小計	平成23年度												4月~2月 小計	累計(暫定) 平成24年2月末 まで
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
処理計画	482,577	6,219	6,449	5,529	5,299	8,779	10,249	11,119	10,309	11,329	4,489	9,514	11,329	89,284	571,861
溶融炉処理計画	465,670	5,670	5,880	5,040	4,830	6,510	6,300	6,300	6,300	6,510	210	5,565	6,510	59,115	524,785
キルン炉処理計画	16,200	540	560	480	460	560	540	560	600	560	20	540	560	5,420	21,620
直下土壌等処理計画	0	0	0	0	0	1,700	3,400	4,250	3,400	4,250	4,250	3,400	4,250	24,650	24,650
岩石等特殊前処理計画	707	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	99	806
月間処理実績(中間処理)	445,300	6,318	7,194	5,035	5,235	7,135	6,626	4,496	7,464	7,256	68	6,548	0	63,375	508,675
溶融炉処理実績	430,111	5,939	6,528	4,539	4,904	6,566	6,097	4,117	6,859	6,689	49	6,116		58,403	488,514
キルン炉処理実績	15,189	379	666	496	331	569	529	379	605	567	19	432		4,972	20,161
うち、仮置土処理実績	(7,721)	(222)	(488)	(195)	(157)	(389)	(408)	(269)	(346)	(428)	(21)	(362)		(3,285)	(11,006)
直下土壌等水洗浄処理実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0
岩石等特殊前処理	846	95	1	12	47	18	6	24	32	12	3	2		252	1,098
処理量合計 ①	446,146	6,413	7,195	5,047	5,282	7,153	6,632	4,520	7,496	7,268	71	6,550	0	63,627	509,773
掘削対象外土壌量	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		0	0
非汚染土壌量 ②	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		0	0
地下水浄化対象土壌量 ③	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		0	0
合計 (①+②+③)	446,146	6,413	7,195	5,047	5,282	7,153	6,632	4,520	7,496	7,268	71	6,550	0	63,627	509,773
溶融炉処理量/溶融炉処理計画量	92.4%	104.7%	111.0%	90.1%	101.5%	100.9%	96.8%	65.3%	108.9%	102.7%	23.3%	109.9%	0.0%	98.8%	93.1%
キルン炉処理量/キルン炉処理計画量	93.8%	70.2%	118.9%	103.3%	72.0%	101.6%	98.0%	67.7%	100.8%	101.3%	97.0%	79.9%	0.0%	91.7%	93.3%
合計/全体量	49.3%	0.7%	0.8%	0.6%	0.6%	0.8%	0.7%	0.5%	0.8%	0.8%	0.0%	0.7%	0.0%	7.0%	56.3%
処理量(m ³)	320,357	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	31,554	351,911

②中間処理施設処理分 搬出量、積込量及び輸送量

平成24年2月までの掘削現場からの搬出量、中間保管・梱包施設での積込量及び陸上・海上輸送量の実績は、下表2-1及び2-2のとおりである。
なお、中間処理施設における処理状況に対応して搬出量を調整した。

表 2-1 (平成15～23年度)

(単位:t)

区分	平成15年度		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	試運転～ 平成22年度 小計	平成23年度 4～2月小計	累計 平成24年2月 末まで
	試運転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)										
処理計画量	-	35,420	60,000	60,000	60,000	62,500	62,000	63,930	70,890	474,740	64,535	539,275
掘削現場からの搬出量	16,831	10,420	46,900	51,020	49,800	53,746	62,910	70,002	71,506	433,135	62,818	495,953
うち、仮置土搬出量	-	-	-	-	-	-	1,850	4,147	5,010	11,007	4,098	15,105
実績	15,253	11,213	49,917	51,870	50,090	53,191	60,354	69,351	71,858	433,097	62,109	495,206
積込量	-	-	-	-	-	-	699	2,661	4,446	7,806	3,245	11,051
うち、仮置土積込量	15,147	11,200	49,820	51,817	50,031	53,281	60,346	69,284	71,956	432,882	62,163	495,045
輸送量	-	-	-	-	-	-	698	2,660	4,557	7,915	3,243	11,158
うち、仮置土輸送量	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1) 掘削現場からの搬出量とは、掘削現場で廃棄物等をトラックに積み込む際に、トラックシャベルに取り付けられた重量測定装置で計量したものである。

2) 積込量とは中間保管・梱包施設でダンブトラックに積込時にトラックスケールで計量したもので、輸送量とは中間処理施設の受入ピットのトラックスケールで計量したものである。

3) 仮置き土搬出量、積込量、輸送量とは、ロータリーキルン炉で高温熱処理するために搬出、積込、輸送した仮置き土の数値(量)である。

表 2-2 (平成23年度)

(単位:t)

区分	試運転～ 平成22年度 小計	平成23年度												累計 平成24年2月 末まで
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
処理計画量	474,740	6,210	6,440	5,520	5,290	7,070	6,840	6,860	6,900	7,070	6,105	7,070	64,535	539,275
掘削現場からの搬出量	433,135	6,599	6,617	6,647	4,080	7,710	4,845	5,520	6,600	7,340	390	6,470	62,818	495,953
うち、仮置土搬出量	11,007	309	327	627	0	460	585	320	340	430	390	310	4,098	15,105
実績	433,097	6,325	7,031	4,837	5,151	7,592	5,196	4,715	7,404	6,730	726	6,402	62,109	495,206
積込量	7,806	226	419	221	121	473	307	275	370	355	141	338	3,245	11,051
うち、仮置土積込量	432,882	6,320	7,037	4,999	4,985	7,610	5,361	4,541	7,399	6,888	620	6,403	62,163	495,045
輸送量	7,915	226	419	221	120	474	307	274	370	354	141	337	3,243	11,158
うち、仮置土輸送量														

③直下土壌等 水洗浄処理搬出量、輸送量、処理量等

平成24年2月までの掘削現場からの搬出量、積替施設からの輸送量、水洗浄処理量、溶融処理対象となった量、非汚染土壌量、掘削対象外土壌量の実績は、下表のとおりである。

表 3

(単位:t)

区分	武運転～ 平成22年度 小計	平成23年度												累計 平成24年2月末 まで	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月～2月 小計
処理計画量	0	0	0	0	0	1,700	3,400	4,250	3,400	4,250	4,250	3,400	4,250	24,650	24,650
水洗浄処理対象土壌	掘削現場からの搬出量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		輸 送 量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実績	水洗浄処理済量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		焼却・溶融処理対象土壌量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
掘削対象外土壌	非汚染土壌量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		地下水浄化対象土壌量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- 1) 掘削現場からの搬出量とは、積替え施設に搬入する際にトラックスケールで計量したものである。
- 2) 輸送量とは、積替え施設から輸送船に積込む際にトラックスケールで計量したものである。
- 3) 水洗浄処理量とは、水洗浄処理業者から洗浄処理完了の報告のあったものである。
- 4) 溶融処理対象量とは、溶融処理を要するダイオキシン等が完了判定基準を超過した汚染土壌である。
- 5) 非汚染土壌量とは、完了判定基準を満たした土壌である。
- 6) 掘削対象外土壌は、完了判定の基準を満たした土壌量は非汚染土壌量に、また、地下水等の浄化対策で処理を要するVOCsが第二溶出量基準以下の汚染土壌は地下水浄化対象土壌量としている。これらの土壌量は公害等調整委員会の調査結果に基づき対象面積、深度、密度から推計。

④特殊前処理物の処理量

平成24年2月までの特殊前処理施設における処理実績は、下表4-1及び4-2のとおりである。

表 4-1 (平成15～23年度)

(単位:t)

区分	平成15年度		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成22年度 平成23年度 4～2月小計	累計 平成24年2月末 まで	
	試運転 (4月～ 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)										
実績	岩石及び コンクリート(t)	9.00	62.75	199.91	74.80	20.60	16.32	80.48	103.51	104.06	243.75	915.18
	金属物(t)	1.16	0.00	18.73	6.61	2.98	1.11	12.33	3.75	8.40	7.85	62.92
	ケーブル屑(t)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	30.83	88.42	0.00	119.25
	ドラム缶(本)	2	142	102	105	59	0	142	11	56	86	705
	可燃物(t)	29.92	188.79	629.46	440.77	281.90	184.81	215.62	153.86	407.89	285.62	2,818.64

1) ケーブル屑は、平成20年度までは、溶融不要物としてキルン炉で処理。平成21年度以降は、処理特殊前処理物処理施設で洗浄後、金属リサイクル業者において有効利用。平成21年及び22年度の処理量は、特殊前処理物処理施設で洗浄完了した時点で計上しており、平成23年度以降は、処理委託の完了報告を受けた時点で計上している。

表 4-2 (平成23年度)

(単位:t)

区分	試運転～ 平成22年度 小計	平成23年度												累計 平成24年2月末 まで			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月～2月 小計		
実績	岩石及び コンクリート(t)	671.43	94.54	0.00	10.93	46.90	17.69	6.23	23.67	32.52	11.27	0.00	0.00	0.00	0.00	243.75	915.18
	金属物(t)	55.07	1.15	0.63	0.92	0.32	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.90	1.93	7.85	62.92	
	ケーブル屑(t)	119.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	119.25
	ドラム缶(本)	619	16	0	6	6	7	40	0	10	0	0	1	86	705		
	可燃物(t)	2,533.02	45.09	60.91	40.68	5.90	20.20	18.50	17.40	36.54	12.20	0.00	28.20	285.62	2,818.64		

⑤副成物の有効利用量

平成24年2月までの副成物の発生量及び販売量など有効利用の実績は、下表5-1及び5-2のとおりである。

表 5-1 (平成15～23年度)

(単位:t)

区 分	平成15年度		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成22年度 小計	平成23年度 4～12月小計	累計 平成24年2月 まで
	試 運 転 (4月～9月17日)	本格稼働後 (9月18日～3月)										
鉄	発生量	10.0	6.2	305.7	323.2	345.5	321.3	368.4	546.1	672.8	2,899.2	3,484.4
	販売量	9.8	0.0	312.1	296.8	333.8	353.3	366.5	383.7	517.6	2,573.6	400.8
銅	発生量	161.9	111.1	404.8	450.4	625.7	518.6	492.2	608.6	790.2	4,163.5	4,906.8
	販売量	161.9	0.0	505.8	457.3	628.9	507.3	502.3	598.7	741.6	4,103.8	690.8
アルミ	発生量	31.0	57.1	48.3	58.1	58.1	215.1	107.7	158.5	232.3	409.2	1,805.6
	再選別除去量	0.0	0.0	0.0	0.0	15.6	0.0	38.2	28.9	0.0	304.4	304.4
溶融飛灰	発生量	587.0	593.0	2,404.0	2,354.7	1,888.1	2,038.0	2,119.5	2,413.9	2,862.5	17,260.7	19,500.8
	販売量	587.0	593.0	2,404.0	2,354.7	1,888.1	2,038.0	2,119.5	2,413.9	2,862.5	17,260.7	19,500.8
溶融スラグ	発生量	1,942.5	9,152.0	32,398.5	34,705.8	32,114.4	31,428.2	30,751.4	34,851.1	33,842.6	241,186.5	30,539.8
	販売量	0.0	0.0	13,852.8	30,913.3	33,326.5	24,547.9	26,565.5	27,721.4	26,393.3	183,320.7	21,485.3
粗大スラグ (粗大スラグの販売量 は、溶融スラグの販売 量に含まれる。)	発生量	—	—	—	—	1,068.6	27,010.3	29,541.7	31,276.9	29,187.7	202,998.6	23,968.0
	販売量	—	—	—	—	(1,068.6)	(2,272.9)	(4,654.7)	(4,664.2)	(3,845.1)	(16,505.5)	(4,336.5)
シルト状スラグ	発生量	—	—	—	—	159.1	1,400.0	3,073.9	4,552.4	5,093.3	14,278.7	3,565.9
	販売量	—	—	—	—	0.0	1,400.1	2,467.3	4,343.3	4,698.1	12,908.8	3,621.4
清掃ダスト	発生量	—	—	—	—	88.2	79.5	175.4	82.0	95.6	520.7	61.8
	販売量	—	—	—	—	0.0	167.7	96.8	126.7	129.5	520.7	61.8
仮置土	発生量	—	—	—	—	—	—	621.0	2,690.0	4,410.4	7,721.4	3,284.8
	販売量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7,552.4	2,979.0
実績	合計販売量	0.0	0.0	16,244.7	32,073.1	37,664.2	27,010.3	29,541.7	31,276.9	29,187.7	202,998.6	23,968.0
用 途	無筋構造物用生コン	0.0	0.0	13,852.8	30,913.3	33,326.5	24,547.9	26,565.5	27,721.4	26,393.3	183,320.7	21,485.3
	コンクリート二次製品	0.0	0.0	2,391.9	1,159.8	4,337.7	2,462.4	2,976.2	3,555.5	2,794.4	19,677.9	2,482.7
合計販売量	0.0	0.0	16,244.7	32,073.1	37,664.2	27,010.3	29,541.7	31,276.9	29,187.7	202,998.6	23,968.0	226,966.6

- 1) 鉄、銅、アルミは一般競争入札により販売。アルミの再選別除去量とは、1次発生したアルミの純度を上げるために、バッチ処理によりアルミと鉄とスラグに再選別し、除去した鉄とスラグの総量である。なお、再選別した鉄はそのまま副成物(鉄)として取扱い、スラグは再溶融処理した。
- 2) 溶融スラグは、上記販売量のほか、試験研究のために2,858.8トン(試運転～平成24年2月)を使用した。
- 3) 粗大スラグ、シルト状スラグ、清掃ダストの発生量・販売量・処理量は、処理量対策として再溶融を止め、有効利用を開始した以降の数値を記載している。
- 4) 粗大スラグは平成18年10月から有効利用しており、その販売量は溶融スラグの合計販売量の(内数)である。なお、第15回管理委員会でご報告したとおり、平成20年9月以降、粗大スラグの混合比を発生量に対してその75%、50%、25%混合したアルカリシリカ反応性試験を追加実施している。
- 5) 粗大スラグの処理量とは、製砂スラグに混合できない粗大スラグを製錬珪砂代替品(平成21年度)やセメントの原料(平成22年度)として有効利用した量である。
- 6) 仮置土の処理量とは、ロータリーキルン炉により高温熱処理した仮置土をセメントの原料として有効利用した量である。
- 7) 不溶化ダストは平成19年10月から溶融飛灰と一緒に処理しており、その発生量・処理量とも溶融飛灰に含まれる。

表 5-2 (平成23年度)

(単位:t)

区 分	実績 平成22年度 小計	平成23年度												累計 平成24年2月末 まで	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月～2月 小計
鉄	発生量	2,899.2	74.7	59.4	39.5	64.7	54.0	47.5	64.7	70.1	2.1	57.1		585.2	3,484.4
	販売量	2,573.6	0.0	130.7	22.9	45.9	34.1	27.6	31.1	59.1	12.7	36.7		400.8	2,974.4
銅	発生量	4,163.5	68.6	75.9	47.4	69.8	91.2	69.7	101.4	93.1	2.3	77.2		743.3	4,906.8
	販売量	4,103.8	0.0	0.0	229.2	0.0	0.0	206.4	0.0	164.0	0.0	91.2		690.8	4,794.6
アルミ	発生量	1,400.6	10.6	13.3	14.1	67.6	45.8	58.4	92.8	61.5	0.0	9.7		405.0	1,805.6
	再選別除去量	304.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	304.4
溶融飛灰	販売量	118.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	118.2
	発生量	17,260.7	232.3	264.4	188.8	219.7	252.9	160.9	247.4	271.2	41.7	200.2		2,240.1	19,500.8
溶融スラグ	処理量	17,260.7	232.3	264.4	188.8	219.7	252.9	160.9	247.4	271.2	41.7	200.2		2,240.1	19,500.8
	発生量	241,186.5	3,209.1	2,417.8	2,365.8	3,369.4	3,049.1	1,984.7	3,166.4	3,839.5	70.4	3,653.7		30,539.8	271,726.3
溶融スラグ (粗大スラグの販売量は、溶融スラグの販売量に含まれる。)	用 無筋構造物用生コン 用途	183,320.7	1,506.5	1,211.2	1,479.0	1,474.5	1,496.0	2,405.5	2,628.8	2,649.3	2,752.1	2,510.4		21,485.3	204,806.0
	合計販売量	19,677.9	300.7	210.2	188.5	138.5	152.3	184.9	262.5	245.0	304.8	337.0		2,482.7	22,160.6
粗大スラグ (粗大スラグの販売量は、溶融スラグの販売量に含まれる。)	発生量	202,998.6	1,807.2	1,421.4	1,667.5	1,613.0	1,648.3	2,590.4	2,891.3	2,894.3	3,056.9	2,847.4		23,968.0	226,966.6
	販売量	21,431.7	441.3	506.5	690.8	788.7	626.4	506.6	733.1	567.8	11.6	236.7		5,482.9	26,914.6
シルト状スラグ	発生量	(16,505.5)	(286.1)	(418.7)	(690.8)	(788.7)	(428.7)	(421.5)	(629.0)	(319.2)	(11.6)	(15.9)		(4,336.5)	(20,842.0)
	処理量	4,764.1	0.0	279.6	35.1	0.0	0.0	53.7	192.3	0.0	193.2	0.0	0.0		753.9
清掃ダスト	発生量	14,278.7	523.3	448.7	265.4	304.0	257.6	171.5	362.6	483.3	20.5	436.7		3,565.9	17,844.6
	処理量	12,908.8	437.8	414.3	388.7	376.4	303.8	218.7	242.7	169.7	206.2	388.7		3,621.4	16,530.2
仮置土	発生量	520.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.1	0.0		61.8	582.5
	処理量	520.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		61.8	582.5
仮置土	発生量	7,721.4	222.0	488.0	157.1	388.3	408.1	268.9	346.3	427.5	21.2	362.1		3,284.8	11,006.2
	処理量	7,552.4	0.0	808.0	0.0	0.0	0.0	1,016.4	0.0	1,154.6	0.0	0.0		2,979.0	10,531.4

⑥高度排水処理施設の処理量

平成24年2月までの高度排水処理施設の処理実績は、下表6-1及び6-2のとおりである。

表 6-1 (平成15～23年度)

(単位: m³)

区分	平成15年度		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度 平成22年度 小計	平成23年度 4～2月小計	累計 平成24年2月未 まで
	試運転 (4月 9月17日)	本格稼働後 (9月18日 ～3月)										
計画量	10,075	14,910	22,490	22,945	22,165	22,360	22,360	20,345	21,905	179,555	20,085	199,640
処理量	9,660	13,089	22,807	23,074	24,105	23,979	23,073	23,878	23,623	187,288	23,042	210,330
実績	海域への放流量	9,515	12,426	20,858	20,054	22,676	21,563	20,406	20,430	168,437	22,016	190,453
	散水等への利用量	145	663	1,949	3,020	1,429	2,416	2,667	3,369	18,851	1,026	19,877

1) 散水等への利用量とは、処理水を場内の粉塵抑制のための散水や特殊前処理物の洗浄用水としての利用量をいう。

2) 高度排水処理施設の処理量は平成23年11月18日以降、65 m³/日から80 m³/日に変更した。

表 6-2 (平成23年度)

(単位: m³)

区分	試運転～ 平成22年度 小計	平成23年度												累計 平成24年2月未 まで		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月～2月 小計	
計画量	179,555	1,950	1,755	1,950	2,015	2,015	1,950	2,015	2,015	1,690	1,820	1,040	1,885	2,015	20,085	199,640
処理量	187,288	2,086	2,123	2,037	2,215	2,217	2,153	2,150	2,212	2,046	2,192	1,611		23,042	210,330	
実績	海域への放流量	168,437	2,051	2,063	1,993	2,185	2,061	2,087	2,111	2,053	1,881	2,051	1,480		22,016	190,453
	散水等への利用量	18,851	35	60	44	30	156	66	39	159	165	141	131		1,026	19,877

2. モニタリング等の実施状況

平成24年3月25日までのモニタリング等の計画及び実績は、下表のとおりである。

表 7

項目		平成23年度												備考					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
直島	環境計画	放流口水質	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	放流の都度実施。年1回全項目（8月実施済み）		
		沈砂池1		○		○		○		○		○		○		○		年1回全項目	
		沈砂池2		○		○		○		○		○		○		○			
	環境計画	高度排水処理施設	排水口水質																
			敷地境界 大気汚染																
		掘削・運搬	騒音																
			敷地境界 振動																
			敷地境界 塵埃																
			地下水	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○は水位測定、◎は合わせて水質分析も実施
			水質汚濁	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
作業環境測定	掘削・運搬	生肌系																	
		常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		定期監視	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○はダイオキシン類、粉塵、◎は合わせて重金属等も実施	
	中間処理施設	個人線量		○		○		○		○		○		○		○			
		騒音																	
		常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		騒音	○																
		常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		騒音	○																
		常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
環境計画	中間処理施設	敷地境界 大気汚染																	
		煙突 (ばいじん)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		煙突 (SO ₂)																	
	周辺環境モニタリング	煙突 (SO ₂)																	
		煙突 (ばいじん)																	
		水質汚濁																	
		敷地境界 騒音・振動・塵埃																	
		最大着地点 大気汚染																	
		排水口 水質・底質																	
		最大着地点 土壌																	
作業環境測定	中間処理施設	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		定期監視																	
	周辺環境モニタリング	常時監視																	
		定期監視 (排水処理施設)																	
周辺環境モニタリング	騒音																		
	海軍 水質汚濁																		

実施欄凡例
○：分析済
●：分析中
△：異時点の対応として
▲：異時点の対応として
×：未実施

3. 薬品、ユーテリテイクの使用量等

平成24年2月までの薬品、ユーテリテイクの使用実績は、下表8-1-1、8-1-2、8-2-1及び8-2-2のとおりである。

表 8-1-1 薬品、ユーテリテイク使用実績 (平成15～23年度)

掘削・運搬	生石灰(kg)	炭酸カルシウム(kg)	炭酸カルシウム(kg)	消石灰(kg)	活性炭(kg)	PAC(kg)	重油(kℓ)	うち、溶融炉(kℓ)	うち、キルン炉(kℓ)	電力(MWh)	上水(m ³)	純水(t)	外部蒸気送り量(t)	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成15年度～平成22年度小計	平成23年度4～2月小計	累計平成24年2月まで	
														本格稼働後(9月18日～3月)											
	300,000	1,005,000	885,000	795,000	785,000	1,380,000	1,820,000	1,670,000	8,640,000	1,295,000	9,935,000														
	930,000	4,200,000	3,720,000	4,095,000	4,695,000	3,123,000	3,060,000	1,700,000	25,523,000	3,165,000	28,688,000														
	722,933	3,203,644	3,329,034	2,909,340	3,939,552	2,828,038	4,282,999	4,822,952	26,038,492	4,412,585	30,451,077														
	247,587	880,309	600,619	543,626	555,081	886,134	1,117,691	1,029,852	5,860,899	914,278	6,775,177														
	237	2,021	8,776	16,299	25,657	28,982	15,829	15,831	113,632	13,719	127,351														
	21,508	79,570	85,710	126,550	100,870	134,230	143,100	166,750	858,288	119,750	978,038														
	2,789	9,520	11,934	13,177	9,924	11,950	12,335	11,694	83,323	9,591	92,914														
中間処理	2,730	9,056	11,540	12,831	9,473	11,507	11,474	10,731	79,342	8,825	88,167														
	59	464	394	346	451	443	861	963	3,981	766	4,747														
	9,258	19,909	20,087	19,976	19,488	19,750	19,910	19,972	148,350	18,289	166,639														
	15,246	55,748	69,303	79,405	65,865	65,790	84,987	71,731	508,075	65,380	573,455														
	16,528	63,164	68,996	65,869	66,120	73,256	65,155	73,835	492,923	51,170	544,093														
	15,083	59,192	64,522	61,586	58,954	64,505	60,452	64,627	448,921	50,089	499,010														

- 1) 生石灰、炭酸カルシウムなどの主な薬品や重油、電力などのユーテリテイクの原単位(廃棄物処理量1トン当たりの実績値)は、別紙に示している。
- 2) 平成18年1月から、中間処理施設の排ガス中のダイオキシン類対策として活性炭の噴霧を行っているため、活性炭の使用量が急増している。
- 3) PACについては、自動計測器がなく、毎月購入在庫を持たないことから、購入量を使用量として記載している。
- 4) H22.6.14～H22.8.7の間、上水使用に係る積算流量計故障により、上水使用量(作業・稼働情報)が計測不能となっている。

表 8-1-2 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成23年度)

	平成15年度～ 平成22年度 小計	平成23年度												累計 平成24年2月末 まで		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月～2月 小計	
掘削・運搬	生石灰(kg)	8,640,000	125,000	155,000	160,000	110,000	105,000	70,000	170,000	145,000	85,000	50,000	120,000	120,000	1,295,000	9,935,000
	炭酸カルシウム(kg)	25,523,000	290,000	335,000	210,000	255,000	455,000	270,000	270,000	360,000	290,000	120,000	120,000	310,000	3,165,000	28,688,000
	炭酸カルシウム(kg)	26,038,492	569,314	613,200	326,052	215,650	536,438	361,897	235,255	376,294	527,516	4,299	646,670		4,412,585	30,451,077
	消石灰(kg)	5,860,899	89,497	99,978	76,380	75,852	99,256	98,395	64,057	97,064	101,089	17,275	95,435		914,278	6,775,177
	活性炭(kg)	113,632	1,371	1,536	1,177	1,206	1,547	1,487	929	1,481	1,544	33	1,408		13,719	127,351
	PAC(kg)	858,288	17,080	17,450	7,590	7,550	13,100	10,000	8,180	10,050	13,090	5,540	10,120		119,750	978,038
中間処理	重油(kℓ)	83,323	1,018	1,023	835	875	1,030	961	703	987	1,015	62	1,082		9,591	92,914
	うち、溶融炉(kℓ)	79,342	949	932	765	808	945	878	642	908	937	57	1,004		8,825	88,167
	うち、キルン炉(kℓ)	3,981	69	91	70	67	85	83	61	79	78	5	78		766	4,747
	電力(MWh)	148,350	1,691	1,760	1,632	1,594	1,832	1,744	1,617	1,768	1,831	1,126	1,694		18,289	166,639
	上水(m3)	508,075	7,340	7,139	4,756	4,660	8,944	5,870	4,210	7,599	8,519	1,384	4,959		65,380	573,455
	純水(t)	492,923	5,385	5,367	4,381	5,307	5,515	5,277	3,548	5,263	5,139	200	5,788		51,170	544,093
	外部蒸気送り量(t)	448,921	5,197	5,228	4,284	5,238	5,421	5,199	3,454	5,186	5,030	132	5,720		50,089	499,010

表 8-2-1 薬品、ユーテリテイ使用実績 (平成15～23年度)
 (下表の薬品については、年間に数回しか使用していないため、購入量を使用量とみなしている。)

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成15年度～ 平成22年度 小計	平成23年度 4～2月小計	累計 平成24年2月末 まで
	本格稼働後 (9月18日 ～3月)										
苛性ソーダ(kg)	80,790	261,260	180,820	80,530	60,320	80,360	60,200	41,180	845,460	20,120	865,580
次亜塩素酸ソーダ(kg)	400	800	200	500	1,400	1,000	1,400	720	6,420	1,760	8,180
高分子凝集剤(kg)	550	1,600	1,450	2,150	1,300	1,950	5,100	2,200	16,300	4,700	21,000
ボイラー清缶剤(kg)	100	500	200	—	—	—	—	—	800	0	800
下段は <原料名第3ソノ酸ソーダ>	—	—	50	25	25	25	25	25	175	0	175
ボイラー脱酸素剤(kg)	400	1,200	200	—	—	—	—	—	1,800	0	1,800
下段は <原料名ピラジソピラート>	—	—	80	160	280	280	240	360	1,400	80	1,480
ボイラー満水保缶剤(kg)	100	400	0	—	—	—	—	—	500	0	500
下段は <原料名オキソソノM-608>	—	—	—	112	128	128	192	224	784	112	896
冷却水薬品 (デラント機器)(kg)	700	1,400	1,000	1,200	2,000	1,400	1,600	1,000	10,300	1,200	11,500
冷却水薬品 (溶融炉)(kg)	1,400	4,400	3,200	3,200	1,300	1,200	1,000	400	16,100	1,400	17,500
HCl試薬(ℓ)	300	150	—	—	—	—	—	—	450	0	450
<原料名フタル酸水素カリウム>	—	—	10	20	20	0	0	0	50	0	50

1)ボイラー薬品三種とHCl試薬については、平成17年度から薬品の原料を購入(下段)し、希釈して使用している。

表 8-2-2 薬品、ユーティリティ使用実績 (平成23年度)
 (下表の薬品については、年間に数回しか使用していないため、購入量を使用量とみなしている。)

	平成15年度～ 平成22年度 小計	平成23年度												累計 平成24年2月末 まで			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月～2月 小計		
苛性ソーダ (kg)	845,460	0	0	0	0	20,120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,120	865,580
次亜塩素酸ソーダ (kg)	6,420	440	0	0	240	0	0	0	0	480	0	600	0	0	0	1,760	8,180
高分子凝集剤 (kg)	16,300	600	300	300	300	500	500	200	600	800	0	600	0	0	4,700	21,000	
ボイラー清缶剤 (kg)	800	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	800
下段は <原料名第3リン酸ソーダ>	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	175
ボイラー脱酸素剤 (kg)	1,800	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1,800
下段は <原料名ヒドラジンヒドラード>	1,400	20	0	0	20	0	0	0	20	0	0	0	0	0	80	1,480	
ボイラー満水保缶剤 (kg)	500	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	500
下段は <原料名オキシノンM-608>	784	16	0	0	16	32	0	0	16	0	0	32	0	0	112	896	
冷却水薬品 (プラント機器) (kg)	10,300	400	0	0	200	200	0	0	400	0	0	0	0	0	1,200	11,500	
冷却水薬品 (溶融炉) (kg)	16,100	200	0	400	0	0	200	200	400	0	0	0	0	0	1,400	17,500	
HCl試薬 (ℓ)	450	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	450	
<原料名フタル酸水素カリウム>	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	

4. 豊島廃棄物等の掘削実績(体積)について

平成24年2月までの廃棄物等の掘削実績は、下表のとおりである。

表 9 (平成15～23年度)

(単位: m³)

区分	平成15年度～平成22年度 小計	平成23年度					累計
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	小計	
掘削量	320,357	→	→	31,554		31,554	351,911
うち、公害等調整委員会 調査結果外	18,721	→	→	0		0	18,721

1) 公害等調整委員会調査結果外とは、公害等調整委員会調査の廃棄物等区域以外の周辺部廃棄物等、つば掘り廃棄物等の量であり、平成22年度までの年度ごとの把握は困難なことから、平成15～22年度に一括掲載している。

2) 23年度の掘削量については、平成23年11月に実施した簡易測量(光波測量)による。

5. 見学者数について

平成24年2月までの豊島、直島それぞれの見学者の実績は、下表のとおりである。

表 10

(単位: 人)

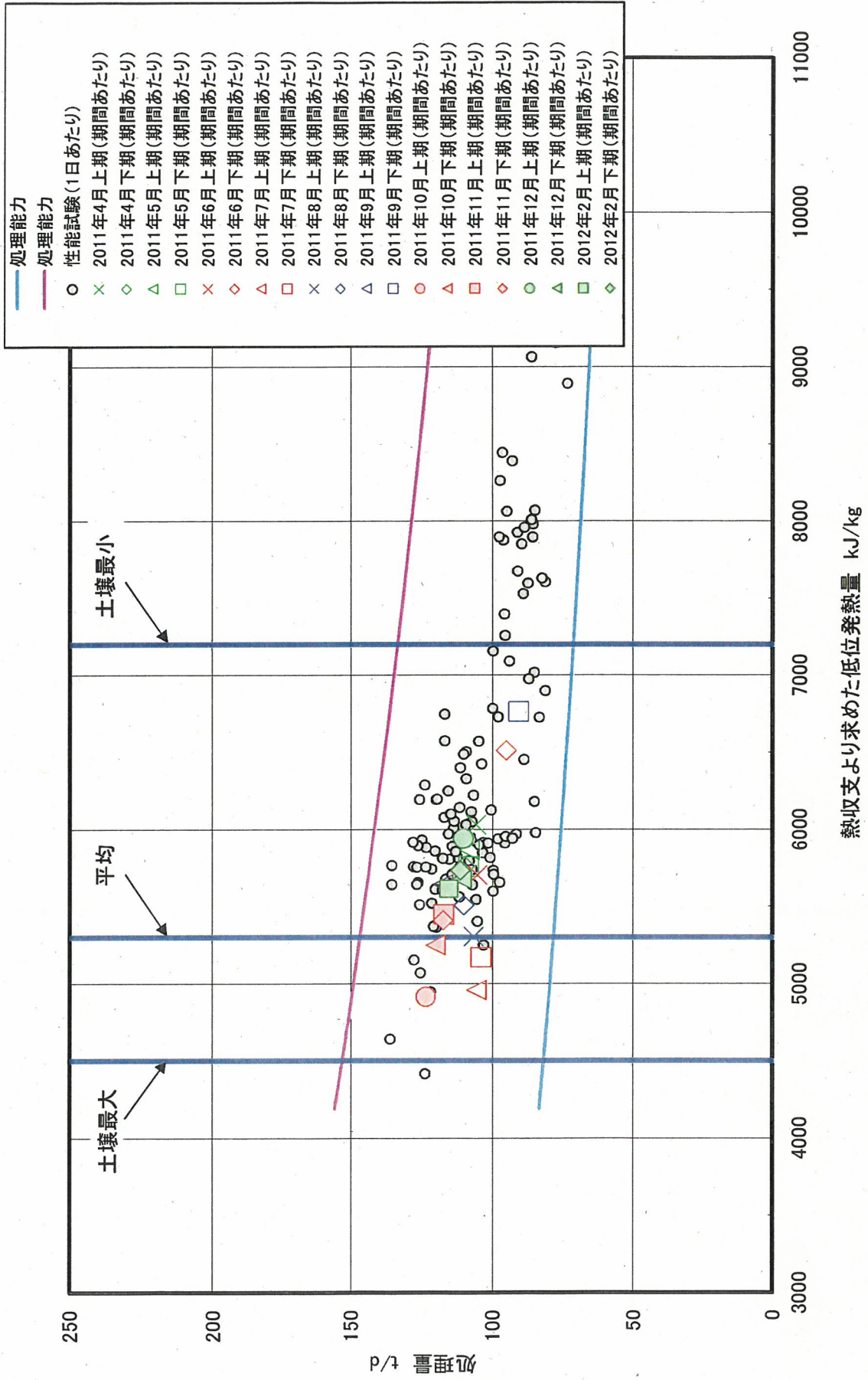
区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成15年度 平成22年度 小計	平成23年度												累計 平成24年2月 まで	
	本格稼働後 (9月18日 ～3月)								4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～2月 小計		
豊島側	3,514	5,489	3,240	2,605	1,922	1,876	1,806	1,561	22,013	139	170	136	210	122	178	285	132	104	60	83		1,619	23,632
直島側	4,935	7,827	5,297	4,114	3,867	3,471	3,673	3,064	36,248	75	96	154	165	222	63	233	410	65	46	80		1,609	37,857
実績 合計	8,449	13,316	8,537	6,719	5,789	5,347	5,479	4,625	58,261	214	266	290	375	344	241	518	542	169	106	163		3,228	61,489

6. ひやり・ハット等の状況

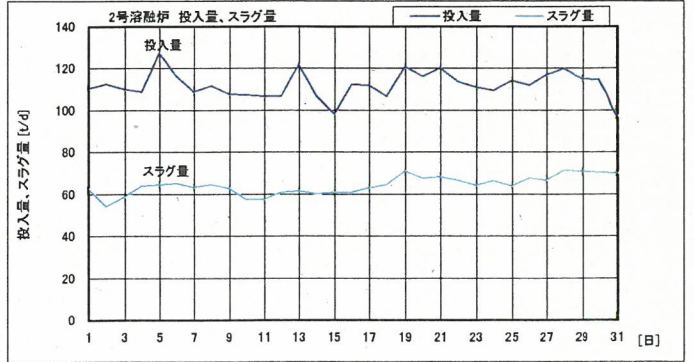
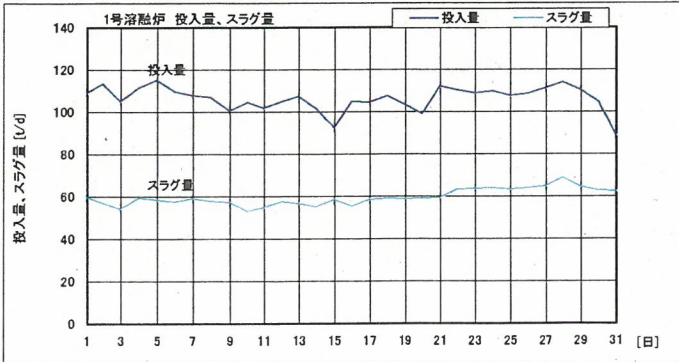
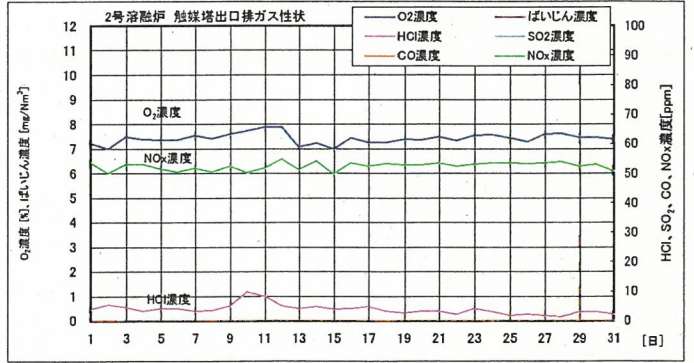
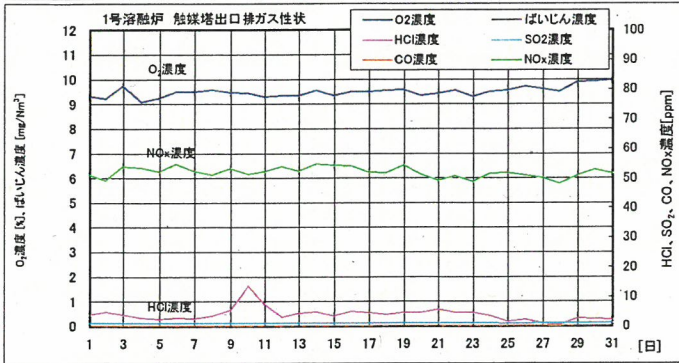
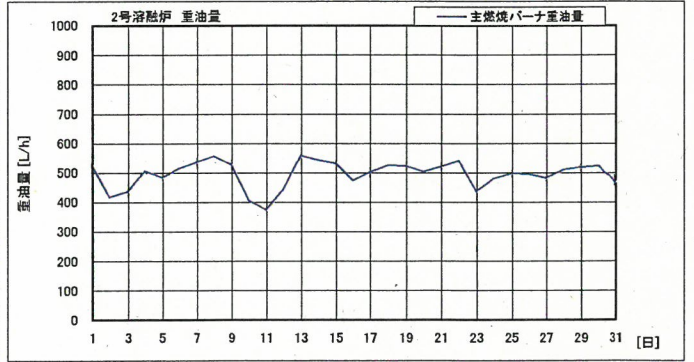
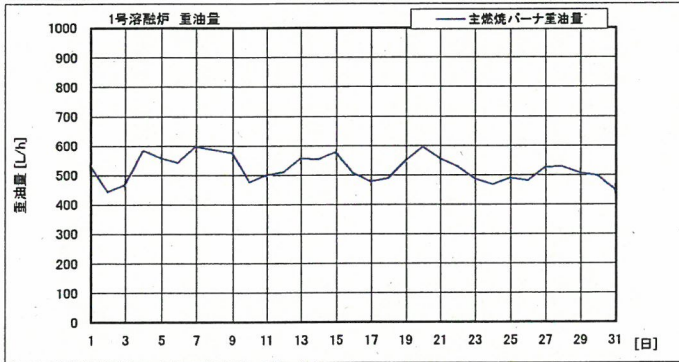
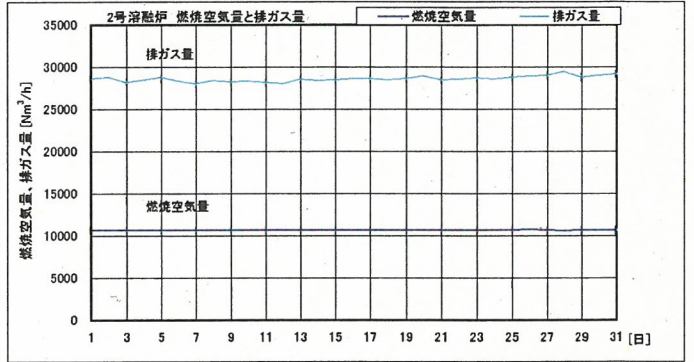
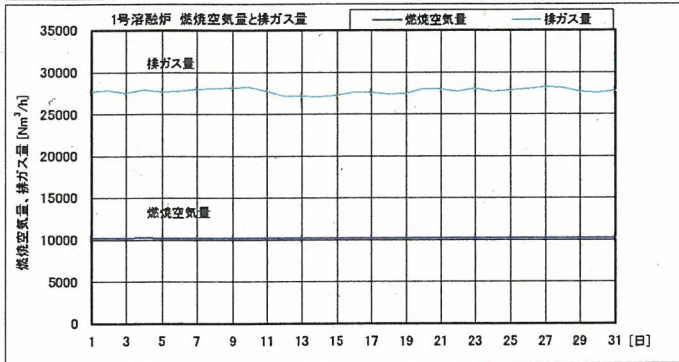
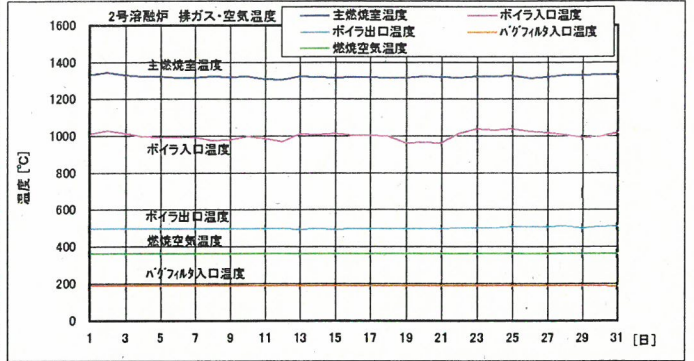
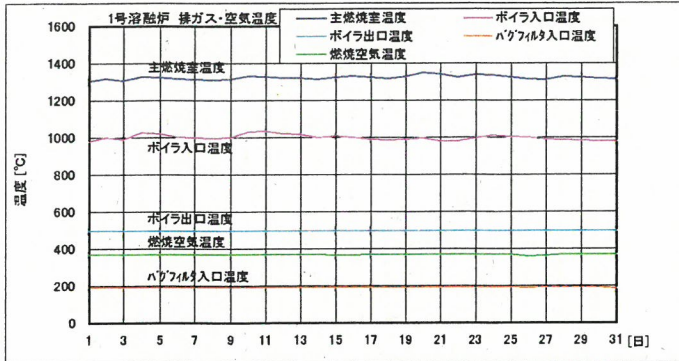
平成24年3月25日までのひやり・ハット等の報告は、下表のとおりである。(前回までの報告分を除く)

番号	日 時	発生場所等	区 分	内 容	再発防止の対応等
1	H24.1.31	中間保管・梱包施設	事故(小規模)	<p>特殊前処理室において、箱型の金属をクラッシュャーで破碎作業中、下部フロントガラスに金属片又は小石と思われるものが飛散してガラスを破損した。</p> <p>(原因)</p> <p>特に大きな金属の処理は、水洗浄後にガス切断することがマニュアルに定められているが、水洗浄では金属にこびりついた廃棄物が落ちず、また金属の厚みも薄かったことから、クラッシュャーでの取り扱いが容易であると判断して作業を実施してしまった。</p> <p>また、過去にこのような事例はなかったことから気の緩みで慎重さに欠けていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イレギュラーな大きさの金属等(1,000mm以上)については県に報告し、指示を受けてから運搬・処理を進める。 ・クラッシュャーの下部フロントガラス前に防護カバー(金網)を取り付けた。
2	H24.2.17	陸上輸送施設	ひやり・ハット	<p>廃棄物専用運送船へダンブトラックの積替え作業中、コンテナダンブトラック待機ヤードで停車中のダンブトラックのエンジンをかけるため運転席ドアを開けて運転席へ乗り込もうとしていると突風が吹き、ドアで足を挟まれそうになった。</p>	<p>関係者には、強風時はドアを押さえるだけでなく、しっかりと持って閉閉を行うよう周知徹底させた。</p>
3	H24.3.11	中間処理施設	ひやり・ハット	<p>フォークリフトで不溶化ダストのコンテナを搬出時に前処理プラットホームから1番ピット東側に入ってピットの際まで着けてコンテナを反転させ、バックしようとした時に前処理のクレーンが格納位置に着地しておりフォークリフトが出られなくなっていた。進入時はクレーンは着地しておらず、どのタイミングでクレーンが動いて着地したかは不明だが接触する可能性があった</p>	<p>前処理クレーン運転担当者は、クレーン自動格納時は着地するまで運転席を離れないことを徹底する。(運転席タッチパネル画面下部に注意書き) 直班・整備班は、コンテナ搬出等で前処理のホッパーステージに入るときはクレーンが自動で運転されている場合があることを考慮し注意しながら進入するようにすることを工程会議で周知する。</p>

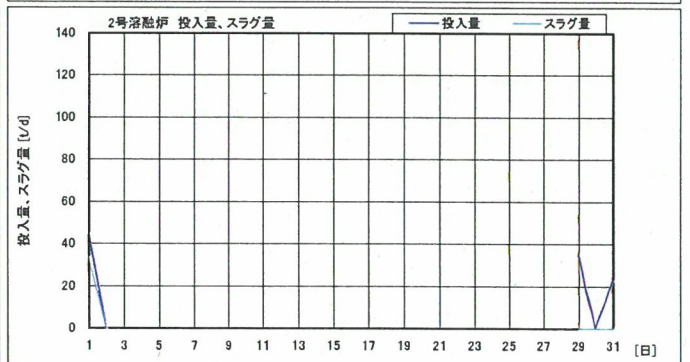
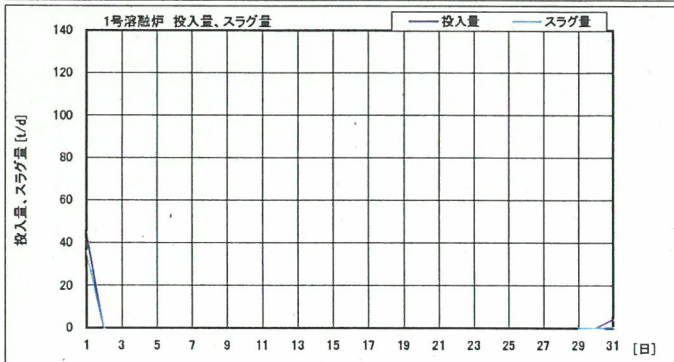
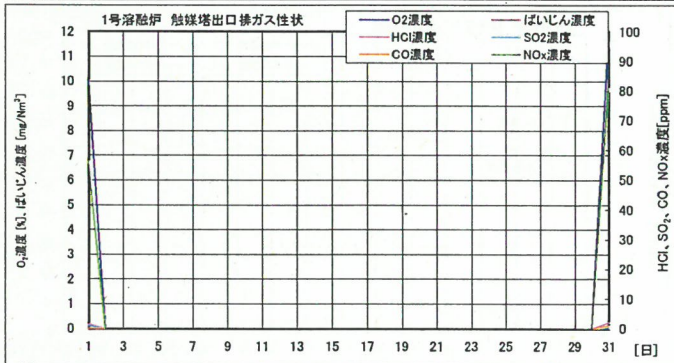
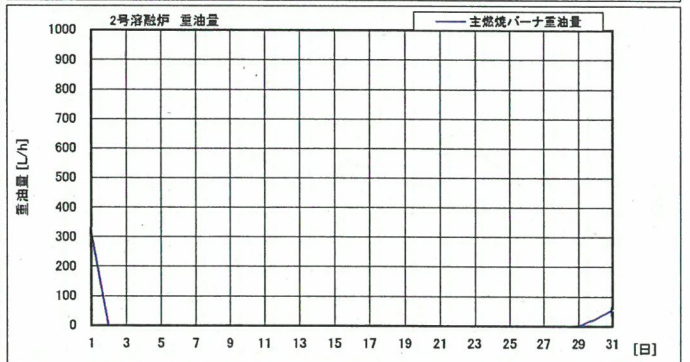
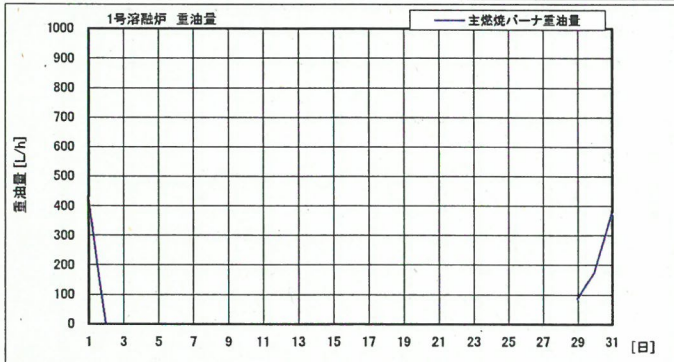
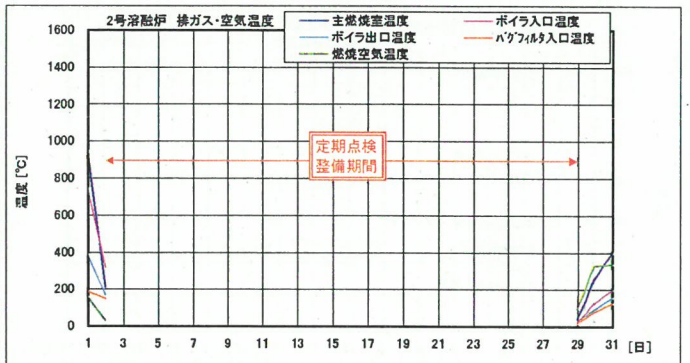
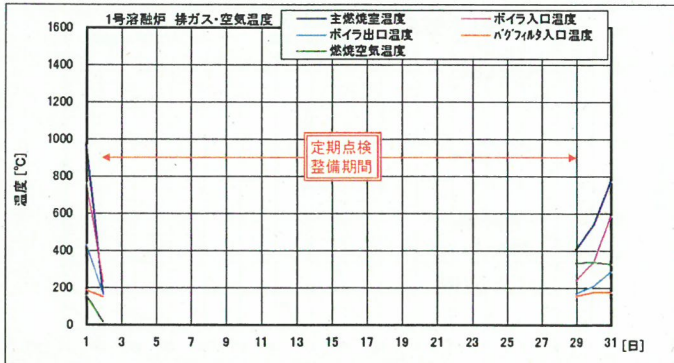
			かもしれない。 前処理のクレーン運転者がクレーンの給脂作業を行うためにクレーンを格納位置に格納するために『自動格納』を押しクレーン着地前に席を離れてしまったことが原因。(席を離れて現場まで行く間にフオークラフトが入って来たものと思われる。)	
--	--	--	---	--



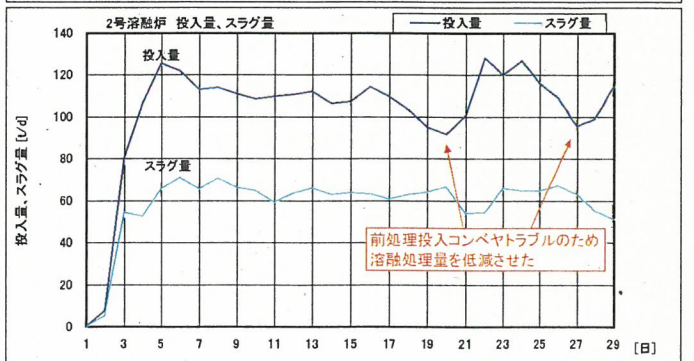
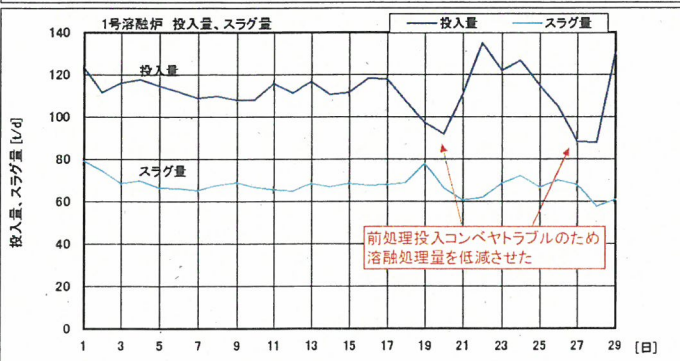
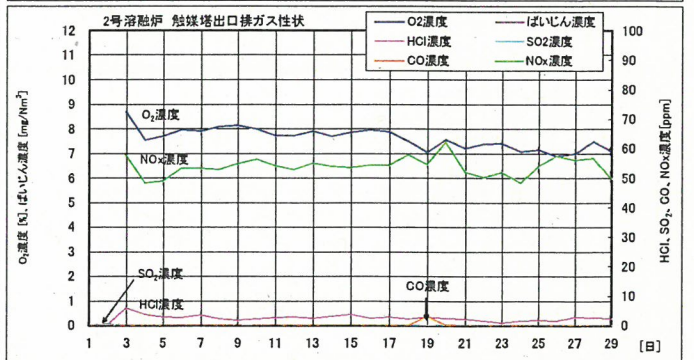
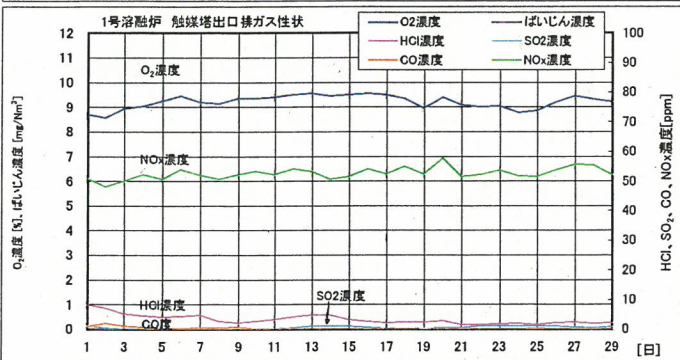
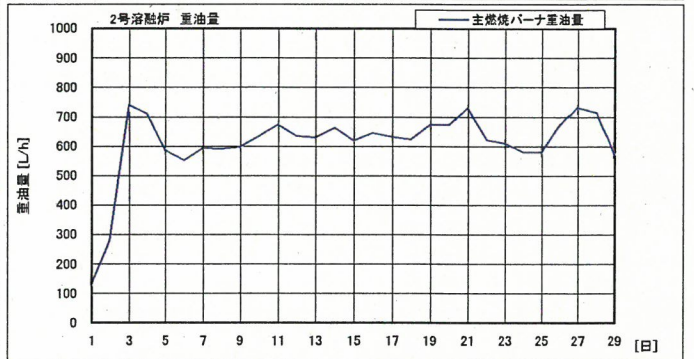
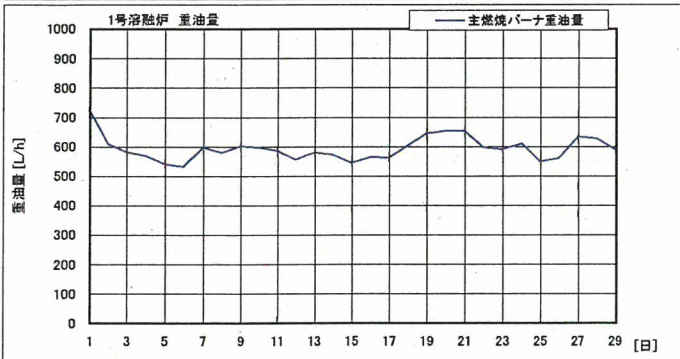
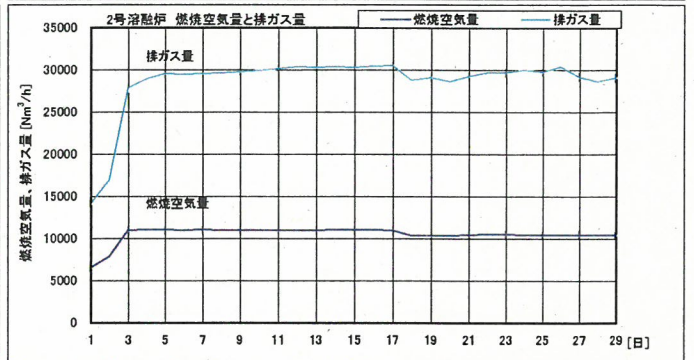
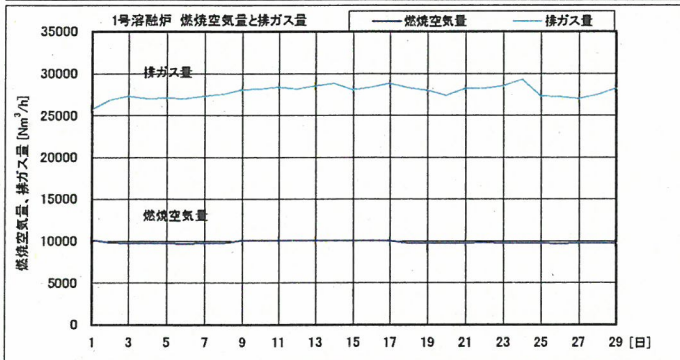
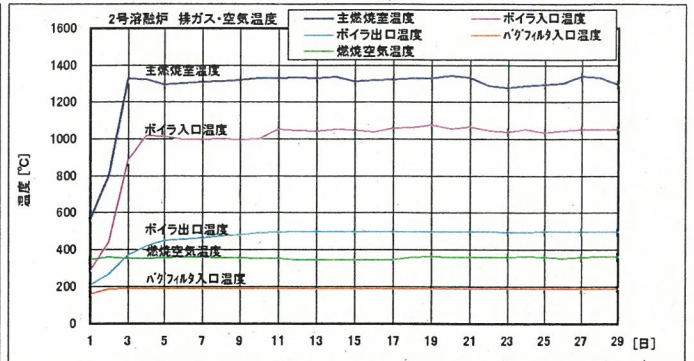
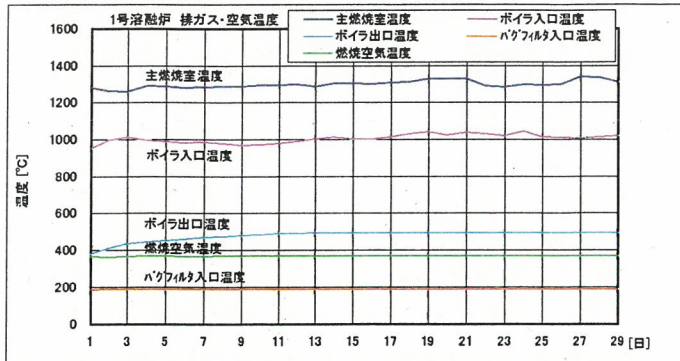
平成23年12月 溶融運転データ(1日単位)



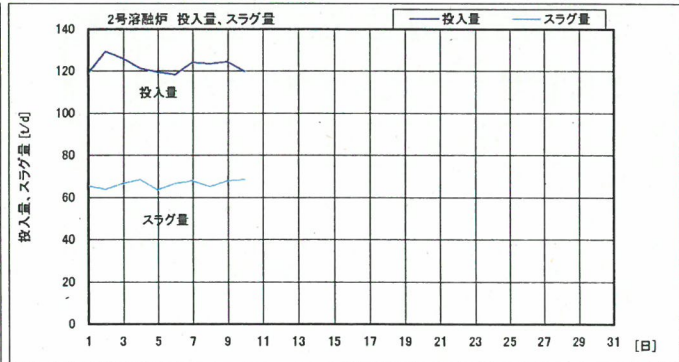
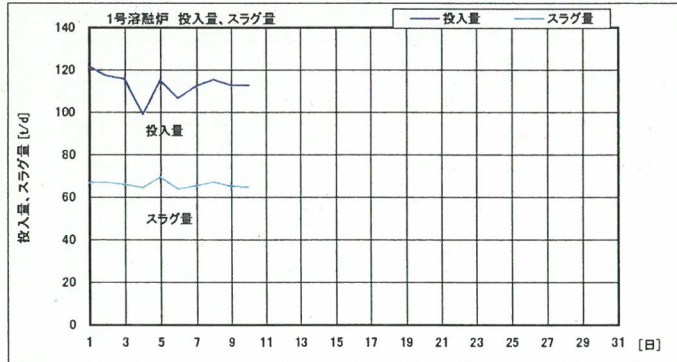
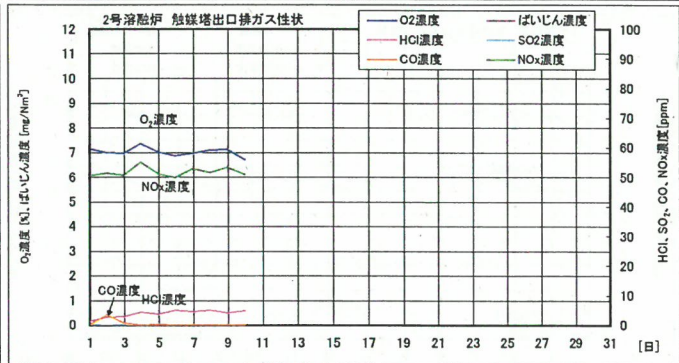
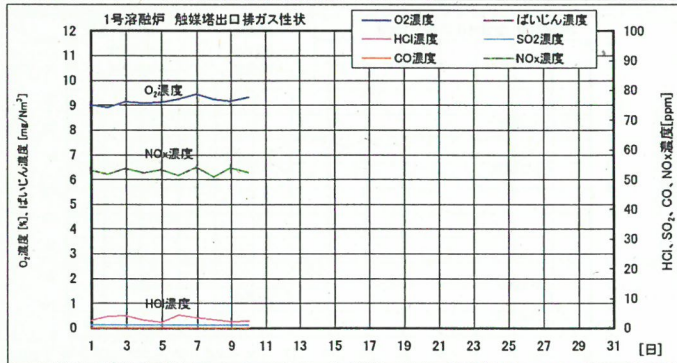
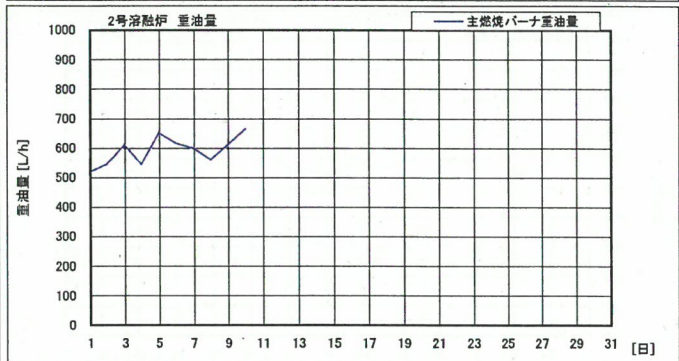
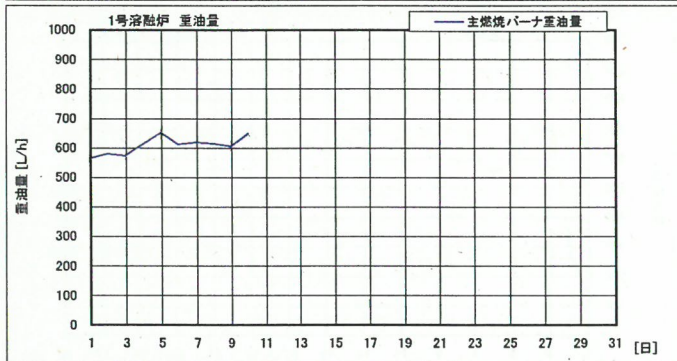
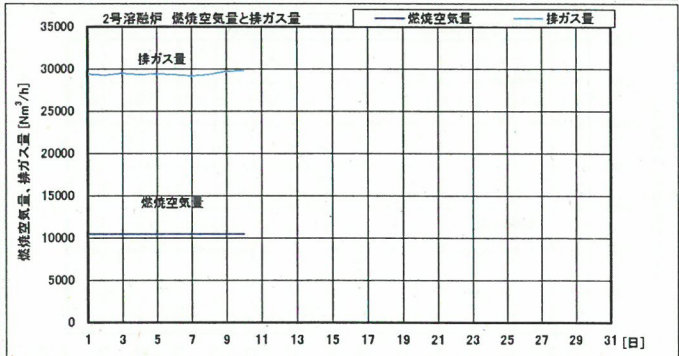
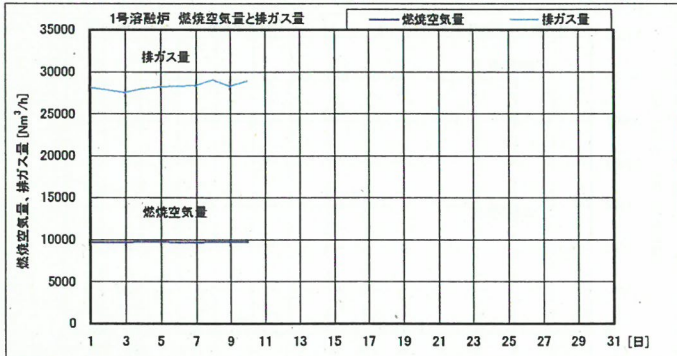
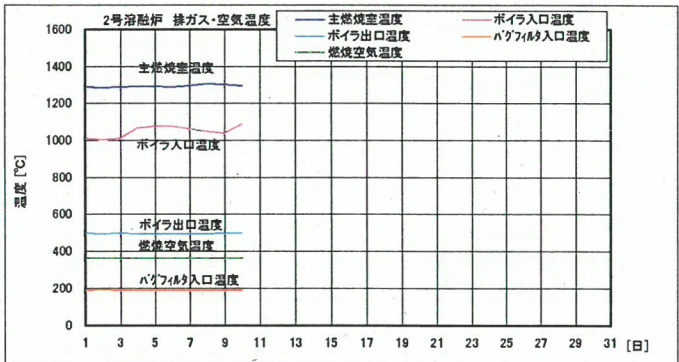
平成24年01月 溶融運転データ(1日単位)



平成24年02月 溶融運転データ(1日単位)

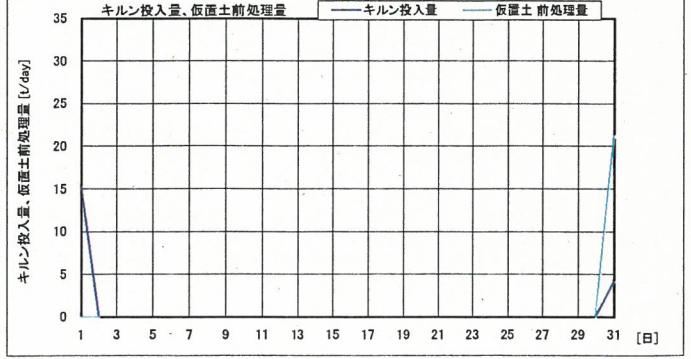
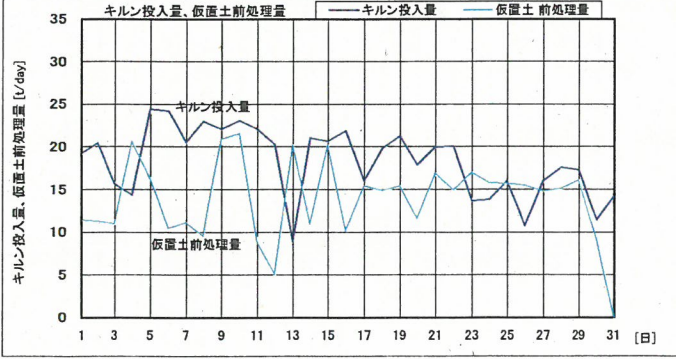
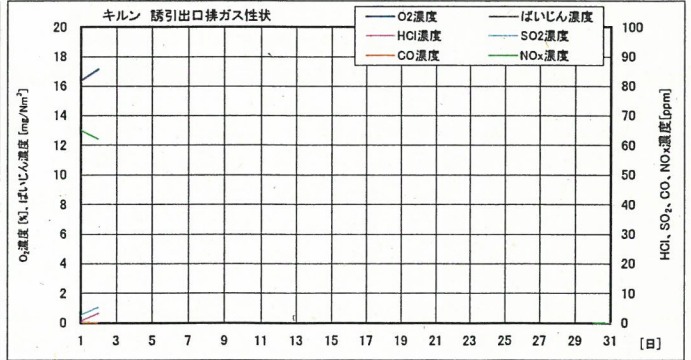
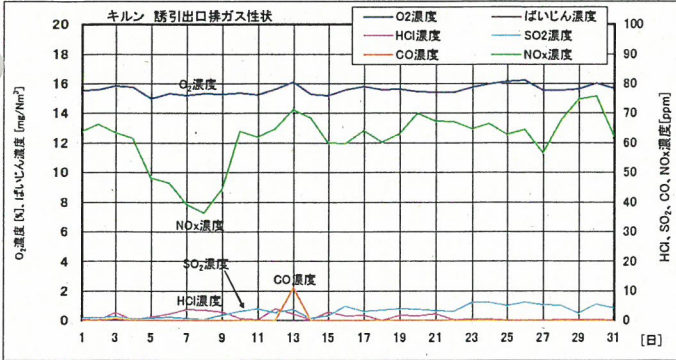
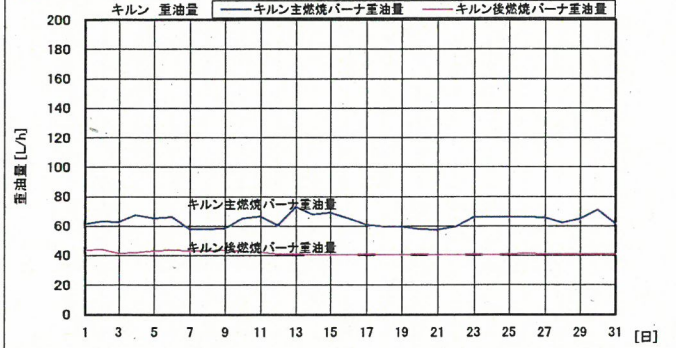
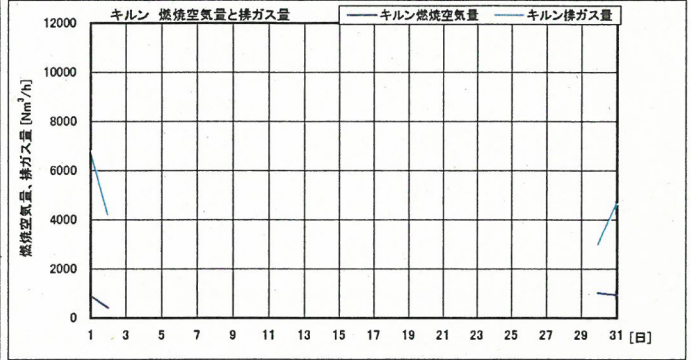
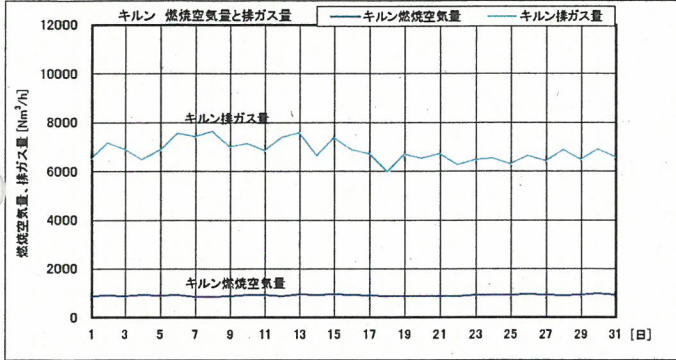
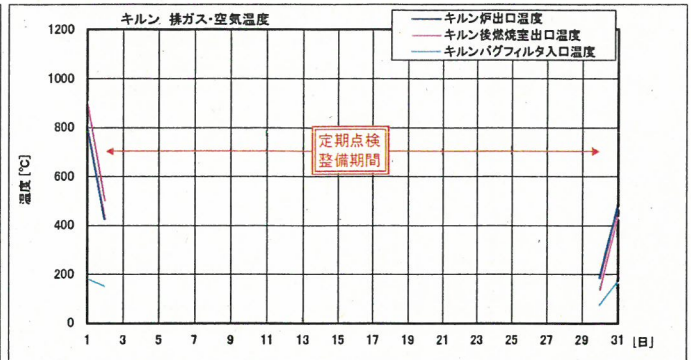
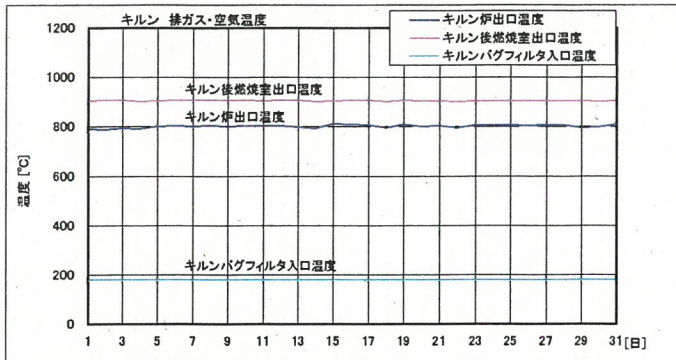


平成24年03月 溶融運転データ(1日単位)

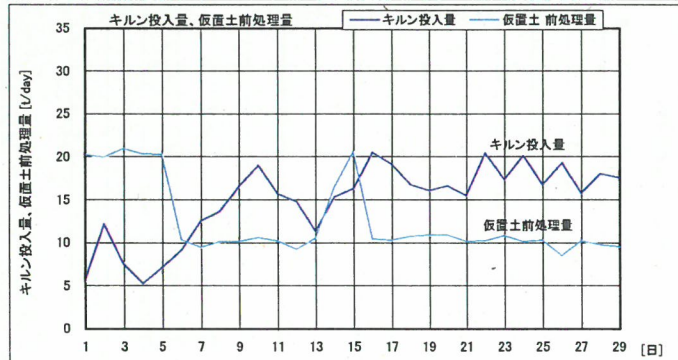
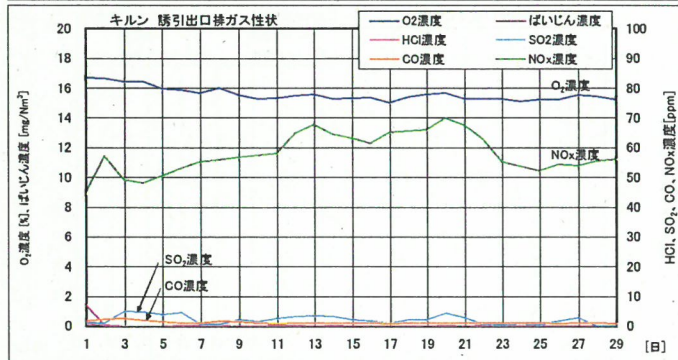
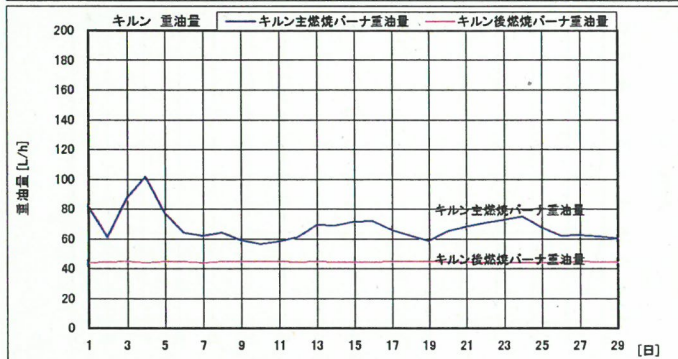
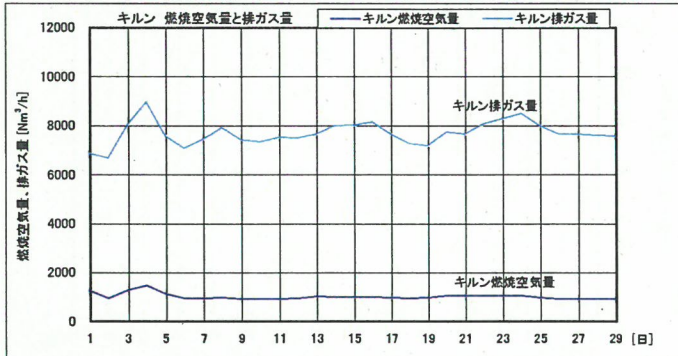
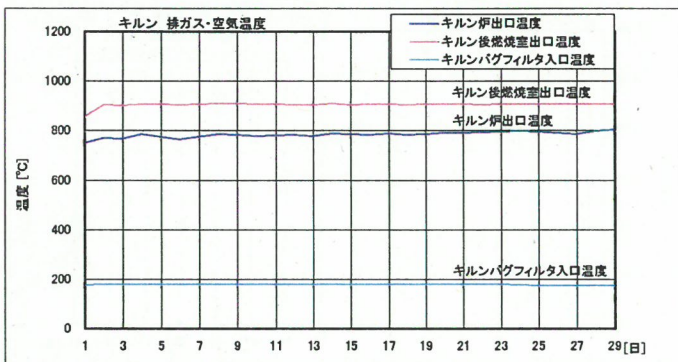


平成23年12月 キルン運転データ(1日単位)

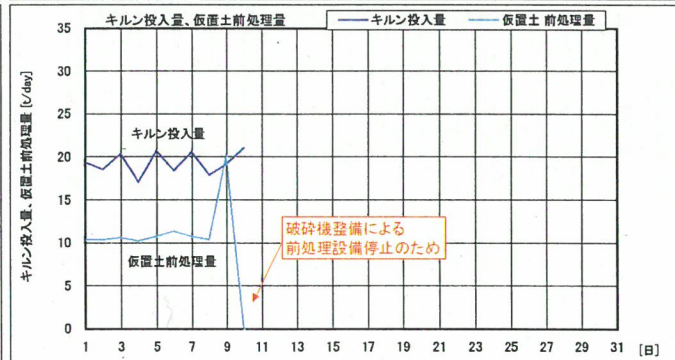
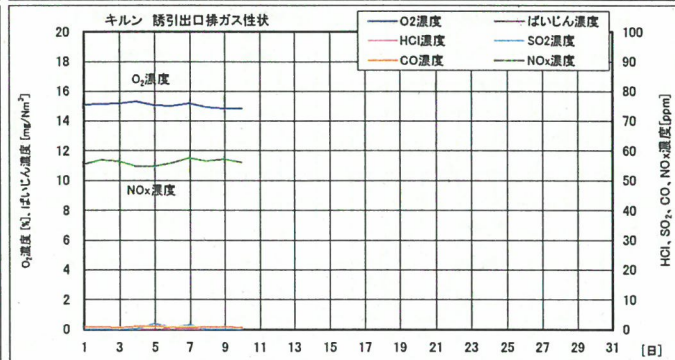
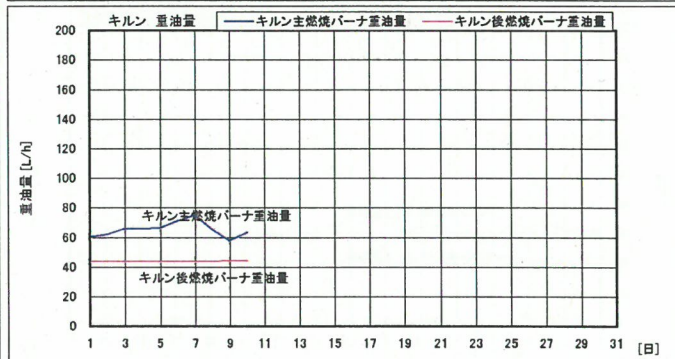
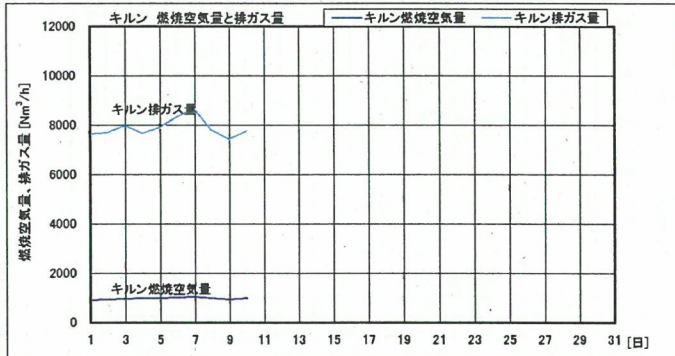
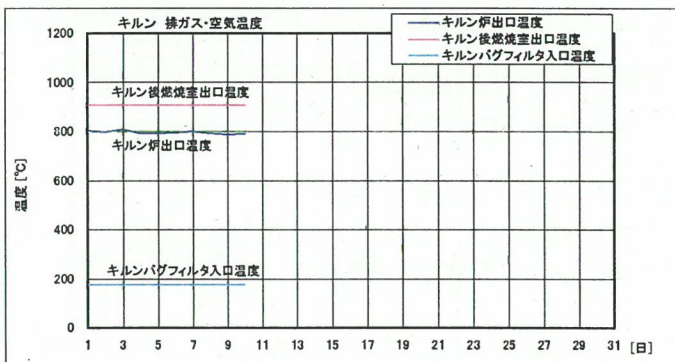
平成24年01月 キルン運転データ(1日単位)



平成24年02月 キルン運転データ(1日単位)



平成24年03月 キルン運転データ(1日単位)



平成25年度 豊島廃棄物処理事業 原単位表

・平成15年度は平成15年9月18日から平成16年3月31日までの処理実績
・網掛けは処理量1t当りの実績値

投入量	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
生石灰	300t	1,005	885	795	785	1,380	1,820	1,670	0.02	0.02	0.03	0.03	0.01	0.02	0.03	0.02	0.01	0	0.02
炭酸カルシウム	0.029	0.021	0.017	0.016	0.015	0.023	0.028	0.025	0.20	0.20	0.23	0.25	0.45	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
風機用燃料	930t	4,200	3,720	4,095	4,695	3,123	3,060	1,700	290	335	210	255	455	270	360	290	120	120	310
その他	0.089	0.090	0.073	0.082	0.067	0.051	0.046	0.026	0.05	0.05	0.03	0.06	0.06	0.06	0.05	0.06	0.04	0	0.05

輸出品	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
生石灰	10,420	46,900	51,020	49,800	53,746	62,910	70,002	71,506	6,599	6,617	6,647	4,080	7,710	4,845	5,520	6,800	7,340	390	6,470
炭酸カルシウム	—	—	—	—	—	(1890)	(4147)	(5010)	(309)	(327)	(627)	(0)	(460)	(585)	(320)	(340)	(430)	(390)	(310)

副産物発生量	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
溶融炉	6.2	0.00049	0.00553	0.00573	0.00638	0.00593	0.00763	0.00882	0.00798	0.01018	0.01147	0.00736	0.00889	0.00799	0.01036	0.00849	0.00947	0.03043	0.00857
キルン炉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

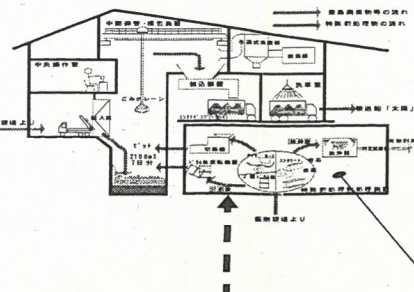
消石灰	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
溶融炉	247.6	0.019	0.016	0.011	0.010	0.014	0.016	0.013	0.014	0.014	0.015	0.014	0.014	0.015	0.014	0.013	0.014	0.251	0.014
キルン炉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

使用量	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
電力使用量 (MWh/処理t)	9.258	19.909	20.087	19.976	19.488	19.750	19.910	19.972	1.691	1.760	1.632	1.594	1.832	1.744	1.617	1.768	1.831	1.126	1.694
上水使用量 (m ³ /処理t)	15.246	55.748	69.303	79.405	65.865	65.790	84.987	71.731	7.340	7.139	4.756	4.660	8.944	5.870	4.210	7.599	8.519	1.384	4.959

H22.6.14～H22.8.7の間、上水使用に係る積算流量計故障により、上水使用量(作業・稼働情報)が計測不能となっている。

副産物発生量	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
溶融炉	593	0.0446	0.0435	0.0417	0.0349	0.0365	0.0341	0.0337	0.0361	0.0360	0.0364	0.0299	0.0302	0.0374	0.0351	0.0325	0.0366	0.6043	0.0300
キルン炉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

副産物発生量	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
銅	111t	404.8	450.4	625.7	518.6	492.2	608.6	790.2	68.6	75.9	46.7	47.4	69.8	91.2	69.7	101.4	93.1	2.3	77.2
アルミニウム	0.0045	0.0008	0.0010	0.0011	0.0039	0.0037	0.0057	0.0038	0.0016	0.0018	0.0027	0.0058	0.0093	0.0068	0.0127	0.0122	0.0083	0.0000	0.0015



積込量(t)	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
15年度	11,213	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16年度	49,917	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

輸送量(t)	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
15年度	11,200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16年度	49,820	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

投入量(t)	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
15年度	46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16年度	836	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

特殊前処理物処理量(t)	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
15年度	62.8	199.9	74.8	20.6	16.3	80.5	103.5	104.1	94.5	0.0	10.9	46.9	6.2	23.7	32.5	11.3	0.0	0.0	0.0
16年度	0.49(t/日)	0.84	0.31	0.08	0.07	0.34	0.43	0.44	4.73	0.00	0.45	2.23	0.80	0.33	1.03	1.48	0.54	0.00	0.00

投入量 ※1	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
15年度	12,227t	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16年度	56,630	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

炭酸カルシウム	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
15年度	723t	0.0568(t/処理t)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16年度	3,203.6	0.0580	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

処理量 ※2	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
15年度	11,979	542	12,722t	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16年度	53,079	2,194	55,273	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

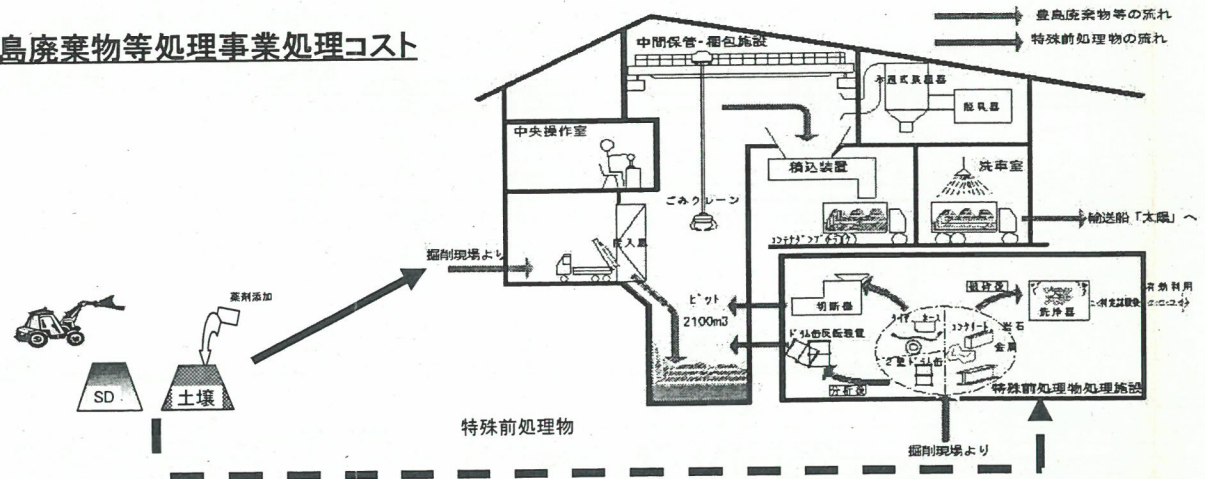
スラグ発生量	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
15年度	9,152	0.719	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16年度	32,399	0.586	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

副産物発生量	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
奇性ソーダ (kg)	80,780	261,260	180,820	80,530	60,320	80,380	60,200	41,180	20,120
次亜塩素酸ソーダ (kg)	400	800	200	500	1,400	1,000	1,400	720	1,760
高分子凝集剤 (kg)	550	1,800	1,450	2,150	1,300	1,950	5,100	2,300	4,700

平成22年度における豊島廃棄物等処理事業処理コスト

年度	処理量(t)
16年度	53,079
17年度	53,945
18年度	52,197
19年度	54,210
20年度	60,597
21年度	70,153
22年度	74,943

・主な項目を記載。



年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	34,411	648
17年度	36,062	689
18年度	32,596	625
19年度	35,493	655
20年度	33,380	551
21年度	32,193	459
22年度	32,981	440

年度	事業費(千円)	(円/処理m ³)
16年度	1,509	※処理水22,807m ³ の処理単価
17年度	1,563	※処理水23,074m ³ の処理単価
18年度	1,352	※処理水24,105m ³ の処理単価
19年度	1,480	※処理水23,979m ³ の処理単価
20年度	1,447	※処理水23,073m ³ の処理単価
21年度	1,348	※処理水23,878m ³ の処理単価
22年度	1,396	※処理水23,623m ³ の処理単価

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	174,300	3,284
17年度	174,300	3,231
18年度	174,300	3,339
19年度	174,300	3,215
20年度	174,300	2,876
21年度	198,135	2,824
22年度	197,589	2,637

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	387,450	7,300
17年度	387,450	7,182
18年度	389,310	7,459
19年度	389,310	7,182
20年度	305,835	5,047
21年度	305,835	4,360
22年度	305,835	4,081

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	27,437	517
17年度	25,740	477
18年度	22,371	429
19年度	21,212	391
20年度	40,434	667
21年度	54,504	777
22年度	55,085	735

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	104,517	1,969
17年度	96,869	1,796
18年度	72,236	1,384
19年度	67,031	1,237
20年度	47,533	784
21年度	39,262	560
22年度	25,565	341

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	351,026	6,613
17年度	600,416	11,130
18年度	767,276	14,700
19年度	667,968	12,322
20年度	879,432	14,512
21年度	650,570	9,274
22年度	741,251	9,891

※単価及び購入量
30.03円/kg(H21)→30.35円/kg(H22)
1.815t(H21)→1.815t(H22)
土壌比率アップに伴い、溶融助剤添加量を低減させる目的から、Caとして効果の高い生石灰添加量を増やし、炭酸カルシウム添加量を低減したことなどによる。

※単価及び購入量
12.894円/kg(H21)→14.322円/kg(H22)
3.045t(H21)→1.785t(H22)

※重油単価及び購入量
52.1円/ℓ(H21)→62.8円/ℓ(H22)
12,193kℓ(H21)→11,564kℓ(H22)

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	299,880	5,650
17年度	256,244	4,750
18年度	255,564	4,896
19年度	255,303	4,710
20年度	255,303	4,213
21年度	262,304	3,739
22年度	275,297	3,673

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	167,032	3,160
17年度	341,119	6,323
18年度	566,104	10,846
19年度	732,420	13,511
20年度	860,285	14,197
21年度	903,669	12,881
22年度	761,703	10,164

※主燃焼室耐火物大規模補修(2号溶融炉)
※主燃焼室耐火物大規模補修(1号溶融炉)
※主燃焼室耐火物大規模補修(2号溶融炉)
※主燃焼室耐火物大規模補修(1号溶融炉)

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	19,346	365
17年度	17,513	325
18年度	15,337	294
19年度	15,965	295
20年度	21,766	359
21年度	32,971	470
22年度	34,121	455

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	6,803	128
17年度	5,126	95
18年度	0	0
19年度	0	0
20年度	0	0
21年度	0	0
22年度	0	0

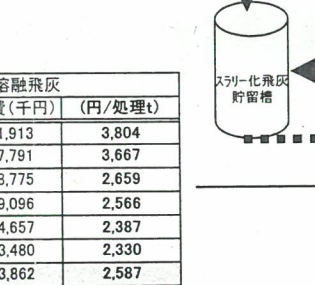
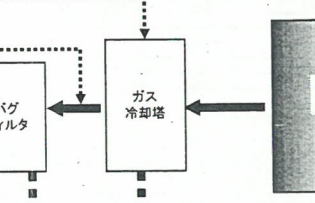
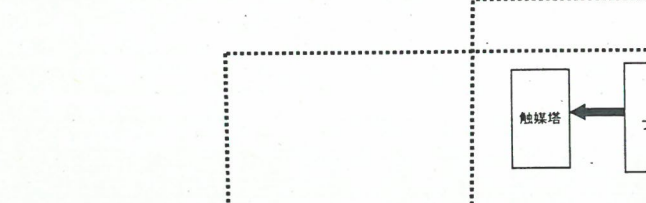
※H18ガス冷却塔への使用中止

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	201,913	3,804
17年度	197,791	3,667
18年度	138,775	2,659
19年度	139,096	2,566
20年度	144,657	2,387
21年度	163,480	2,330
22年度	193,862	2,587

※処理単価84,000円/t(H17)→73,500円/t(H18)
→68,250円/t(H19)→67,725円(H21)

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
20年度	230	340
21年度	36,458	12,309
22年度	55,970	12,193

※20年度は土砂置場まで輸送費のみ。



※は、収益を表示。
※は、薬品の再掲。
※は、全体事業費。

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	38,682	729
17年度	60,726	1,126
18年度	52,324	1,002
19年度	68,791	1,269
20年度	50,652	836
21年度	77,120	1,099
22年度	84,687	1,130

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	225,602	4,250
17年度	234,507	4,347
18年度	201,690	3,864
19年度	202,547	3,736
20年度	201,376	3,323
21年度	241,284	3,439
22年度	226,870	3,027

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	208,338	3,925
17年度	218,217	4,045
18年度	220,339	4,221
19年度	213,825	3,944
20年度	247,555	4,085
21年度	225,538	3,215
22年度	220,413	2,941

年度	還元費(千円)	(円/処理t)
16年度	22,138	417
17年度	26,635	494
18年度	28,797	552
19年度	27,826	513
20年度	27,325	451
21年度	24,085	343
22年度	26,600	355

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	152,098	2,866
17年度	143,897	2,668
18年度	153,031	2,932
19年度	145,714	2,688
20年度	166,601	2,749
21年度	173,822	2,478
22年度	165,995	2,215

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	12,769	241
17年度	14,793	274
18年度	16,175	310
19年度	13,508	249
20年度	12,854	212
21年度	15,423	220
22年度	16,465	220

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	2,493,728	46,981
17年度	2,815,856	52,198
18年度	3,099,227	59,375
19年度	3,226,552	59,520
20年度	3,628,955	59,887
21年度	3,594,876	51,243
22年度	3,575,120	47,704

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	2,463,803	46,417
17年度	2,770,046	51,349
18年度	3,045,630	58,349
19年度	3,181,764	58,693
20年度	3,577,662	59,040
21年度	3,542,267	50,493
22年度	3,515,424	46,908

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	454,912	8,570
17年度	430,967	7,989
18年度	374,364	7,172
19年度	366,305	6,757
20年度	401,063	6,619
21年度	432,518	6,165
22年度	432,518	5,771

年度	販売費(千円)	(円/処理t)
16年度	14,870	280
17年度	24,104	447
18年度	26,412	506
19年度	26,629	491
20年度	29,534	487
21年度	31,434	448
22年度	38,934	520

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	387,450	7,299
17年度	387,450	7,182
18年度	389,310	7,458
19年度	389,310	7,182
20年度	305,835	5,047
21年度	305,835	4,360
22年度	305,835	4,081

年度	販売費(千円)	(円/処理t)
16年度	5,309	100
17年度	2,462	46
18年度	3,505	67
19年度	4,080	75
20年度	5,003	83
21年度	2,417	35
22年度	3,261	44

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	1,195,368	22,521
17年度	1,580,591	29,300
18年度	1,979,412	37,922
19年度	2,041,545	37,660
20年度	2,459,990	40,596
21年度	2,246,684	32,025
22年度	2,195,541	29,296

年度	販売費(千円)	(円/処理t)
16年度	1,082	21
17年度	499	8
18年度	30	0

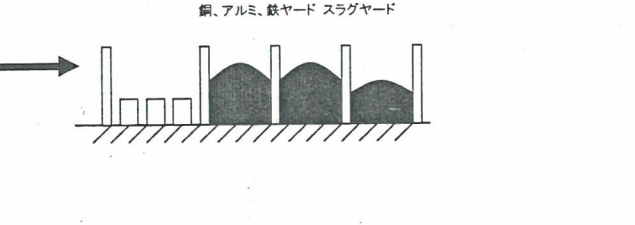
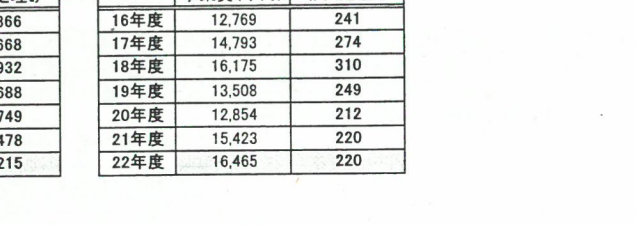
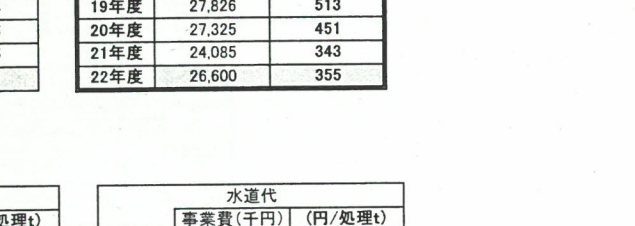
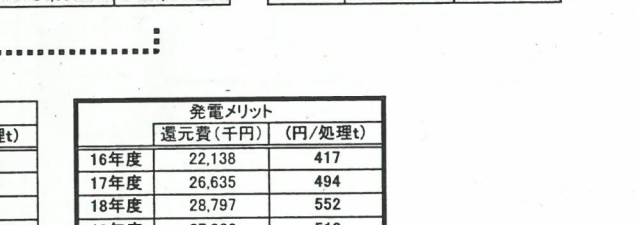
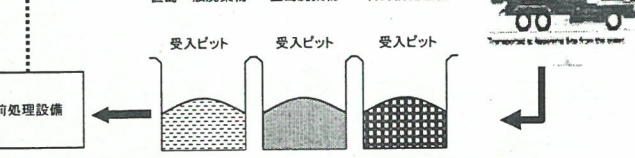
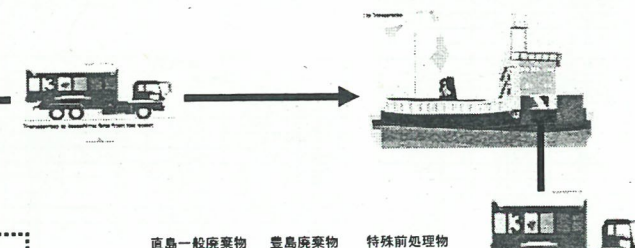
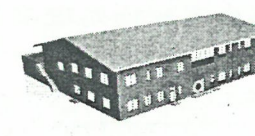
年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	398,946	7,516
17年度	351,394	6,514
18年度	298,057	5,710
19年度	362,989	6,696
20年度	399,732	6,597
21年度	562,077	8,012
22年度	585,628	7,814

年度	販売費(千円)	(円/処理t)
16年度	9,747	184
17年度	19,244	357
18年度	22,598	433
19年度	14,080	260
20年度	16,257	268
21年度	18,728	267
22年度	17,501	234

年度	事業費(千円)	(円/処理t)
16年度	57,052	1,075
17年度	65,454	1,213
18年度	58,084	1,113
19年度	66,403	1,225
20年度	62,335	1,029
21年度	47,762	681
22年度	55,598	742

年度	販売費(千円)	(円/処理t)
16年度	1,075	20
17年度	1,213	22
18年度	1,113	21
19年度	1,225	23
20年度	1,029	19
21年度	681	13
22年度	742	14

スラグの保管量が低下したため、19.6.4～9.30まで販売を一時的に停止した。



豊島廃棄物等処理事業基本計画について

1. 年度別・処理方法別処理計画

平成24年度以降の年度別・処理方法別処理計画(案)は、第27回管理委員会(H23.12.24)において、各種処理量アップ対策を講じ、表1のとおり、できる限り早く処理を終えることを目指すこととなった。

この計画案では、中間処理施設の定期整備回数を年1回として、処理日数を増加(24年度から27年度で処理日数を147日/2炉増加)し、また、仮置き土等土壌主体廃棄物のセメント原料化(6,000t/年)及び仮置き土以外の土壌主体廃棄物の高温熱処理を行うこととしている。

しかし、仮置き土以外の土壌主体廃棄物の高温熱処理又はセメント原料化の実施については、処理対象物(仮置き土、周辺廃棄物等、第4工区土壌主体廃棄物等)やその前処理方法についての検討が必要であり、また、仮置き土等土壌主体廃棄物のセメント原料化の実施には、国との協議、調停条項上の整理及び搬出先事業者等との協議が必要である。

従って、平成24年度以降の年度別・処理方法別処理計画については、今後、処理量アップ対策について、更に詳細な検討を行った後、掘削計画とあわせて次の管理委員会に諮ることとしたい。

表1 年度別・処理方法別処理計画(案)

年 度	重 量 (t)											体積(m ³)			
	溶融炉			キルン炉			岩石等特 殊前処理	小計	直下土壌等			セメント 原料化	合計	合計	
廃棄物等	土壌	計	溶融 不燃物	土壌主体 廃棄物	計	水洗浄 処理			地下水 浄化	溶融処理					
15	9月～翌年3月 (試運転を含む)	-	-	26,472	136	-	136	73	26,681	0	0	0	-	26,681	-
16	4月～翌年3月	-	-	52,243	836	-	836	219	53,298	0	0	0	-	53,298	-
17	4月～翌年3月	-	-	53,186	759	-	759	81	54,026	0	0	0	-	54,026	-
18	4月～翌年3月	-	-	51,261	936	-	936	24	52,221	0	0	0	-	52,221	-
19	4月～翌年3月	-	-	53,183	1,027	-	1,027	17	54,227	0	0	0	-	54,227	-
20	4月～翌年3月	47,186	11,797	58,983	900	621	1,521	93	60,597	0	0	0	-	60,597	-
21	4月～翌年3月	50,920	15,210	66,130	1,195	2,690	3,885	138	70,153	0	0	0	-	70,153	-
22	4月～翌年3月	51,490	17,163	68,653	1,679	4,410	6,089	201	74,943	0	0	0	-	74,943	-
H15～H22小計		-	-	430,111	7,468	7,721	15,189	846	446,146	0	0	0	-	446,146	320,357
23	4月～翌年2月	43,861	14,542	58,403	1,733	3,239	4,972	252	63,627	0	0	0	0	63,627	45,000
	3月(推計)	4,889	1,621	6,510	94	466	560	9	7,079	0	0	0	0	7,079	5,000
	H23計(推計)	48,750	16,163	64,913	1,827	3,705	5,532	261	70,706	0	0	0	0	70,706	50,000
24	4月～翌年3月	54,000	8,000	62,000	1,000	4,000	5,000	0	67,000	2,000	0	0	2,000	71,000	50,000
25	4月～翌年3月	54,000	8,000	62,000	1,000	4,000	5,000	0	67,000	22,000	8,000	(3,000)	6,000	103,000	66,000
26	4月～翌年3月	54,000	9,000	63,000	1,000	2,000	3,000	0	66,000	23,000	10,000	(3,000)	6,000	105,000	67,000
27	4月～翌年3月	56,000	9,000	65,000	1,000	0	1,000	0	66,000	23,000	10,000	0	6,000	105,000	67,000
28	4月	3,000	1,000	4,000	0	0	0	0	4,000	0	0	0	1,000	5,000	3,000
H23～H28小計		269,000	51,000	320,000	6,000	14,000	20,000	0	340,000	70,000	28,000	(6,000)	21,000	459,000	303,000
合 計				750,000			35,000	1,000	786,000	70,000	28,000	(6,000)	21,000	905,000	622,000
処理対象量													905,000	622,000	

注1) 直下汚染土壌の地下水浄化処理の各年度は、対象土壌と想定されている箇所の掘削完了判定調査を行う年度である。実際の浄化処理は、廃棄物等の処理が終了した後である。

注2) 平成24年度水洗浄処理計画2,000tのうち、900tは21年度に分別回収した覆土である。

2. 溶融処理に関する設定条件

第 27 回管理委員会 (H23.12.24) で審議・承認いただいた表 1 の年度別・処理方法別処理計画における平成 24 年度以降の均質化物混合割合は、廃棄物等：土壌＝86%：14% (重量比) と想定していた。この場合、廃棄物等には混入土壌が平均 21 重量%含まれているため、混合後の土壌比率は約 32%となっている。しかしながら、その後の廃棄物性状調査結果を反映させた場合、セメント原料化及び高温熱処理を見込んでいた 31,000 t の土壌主体廃棄物を差し引いても、処分地内の土壌比率は、廃棄物等：土壌＝82%：18% (重量比) となり、廃棄物等には混入土壌が平均 21 重量%含まれているとしても、混合後の土壌比率は約 36%となる。

また、廃棄物等性状調査の結果では、土壌主体廃棄物以外の廃棄物中の土壌比率が 20～63%と比較的高かったことから、当面の間、土壌比率 35～40%で均質化を行こととし、これまで、処理量アップ対策として実施していた土壌比率 40～45%での均質化は終了させる。

注) 均質化物混合割合における「廃棄物等」とは、シュレッダーダスト、燃え殻及びこれらに混入している土壌であり、「土壌」とは、鉱さい、覆土、仮置き土、第 4 工区土壌主体廃棄物及び廃棄物埋設区域の周辺部において掘削が予想される土壌主体廃棄物をいう。

3. 土壌比率と溶融処理量の関係についての調査

セメント原料化において、効率的な溶融処理を行いながら、別途処理することができる土壌主体廃棄物等の量を検討するために、土壌比率と溶融処理量の関係についてデータを収集する必要がある。これまで、低い土壌比率での溶融処理については、データが少ないことから、今後、試験的に土壌比率が 35%の均質化物を作成し、処理量への影響を調査する。

4. 第3次掘削計画の基本方針

今後の廃棄物等の掘削基本方針については、廃棄物底面の状況など処分地の全体像ができるだけ早期に把握できるように、一定の区画ごとに廃棄物底面まで掘削(ベンチカット)を行う場合及び廃棄物等の性状により他の区画と混合しなければならない場合があるため、事前に廃棄物等性状調査を実施し、掘削計画を見直すことについて、第26回管理委員会(平成23年9月17日)で審議・承認された。

そこで、廃棄物の性状調査を引き続き実施するとともに、前提条件(区域別廃棄物性状・土壌比率・雨水等管理・年度別処理量など)の整理を行い、平成24年7月を目途に、図1のとおり第3次掘削計画案の策定を進める。

まず、処分地内の各地点での廃棄物性状をデータベース化(資料28・II/2-1-2)し、均質化物の土壌比率の設定を行う。そして、土壌主体廃棄物のセメント原料化と効果的な溶融処理を両立できる処理量を設定した後、廃棄物性状の平滑化を図った期間毎の掘削計画を作成し、水収支計算により処分地内シート開放面積やトレンチ容量を求め、第3次掘削計画案を完成させ、次回の管理委員会に諮る。

なお、現在、処分地では、少量の降雨であっても、掘削面に雨水が溜まり、掘削作業に支障をきたすなど、雨水対策が重要な課題となっていることから、第3次掘削計画の雨水等管理(水収支計算)については、河原委員のご協力により検討を進める予定である。

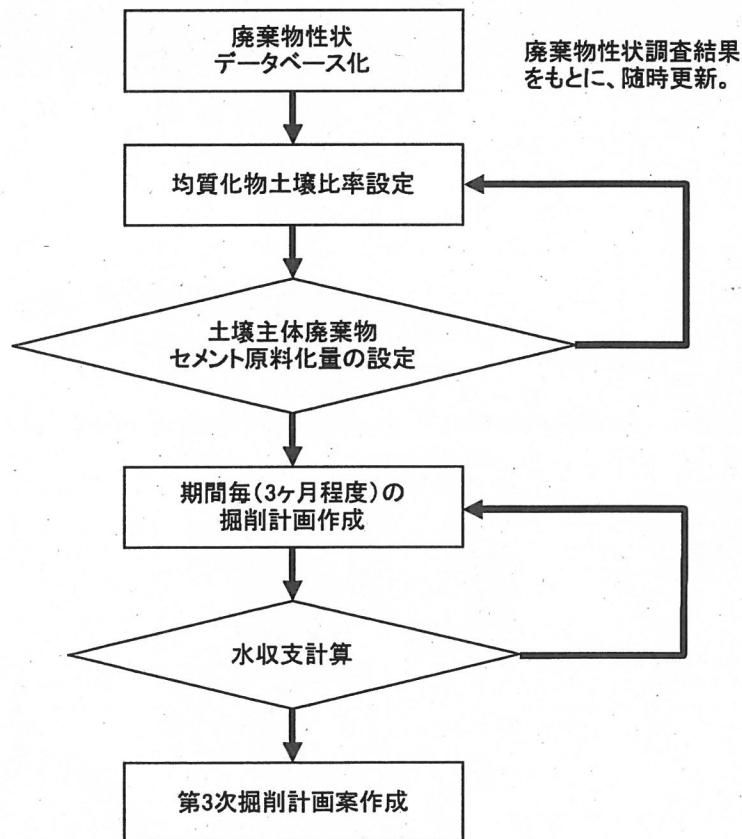


図1 掘削計画策定の流れ

5. 当面の豊島処分地掘削予定について

(1) 処分地の現況

平成 23 年 12 月の豊島処分地の状況は、写真 1 のとおりであり、また、平成 24 年 3 月現在の掘削状況は、図 2 のとおりである。

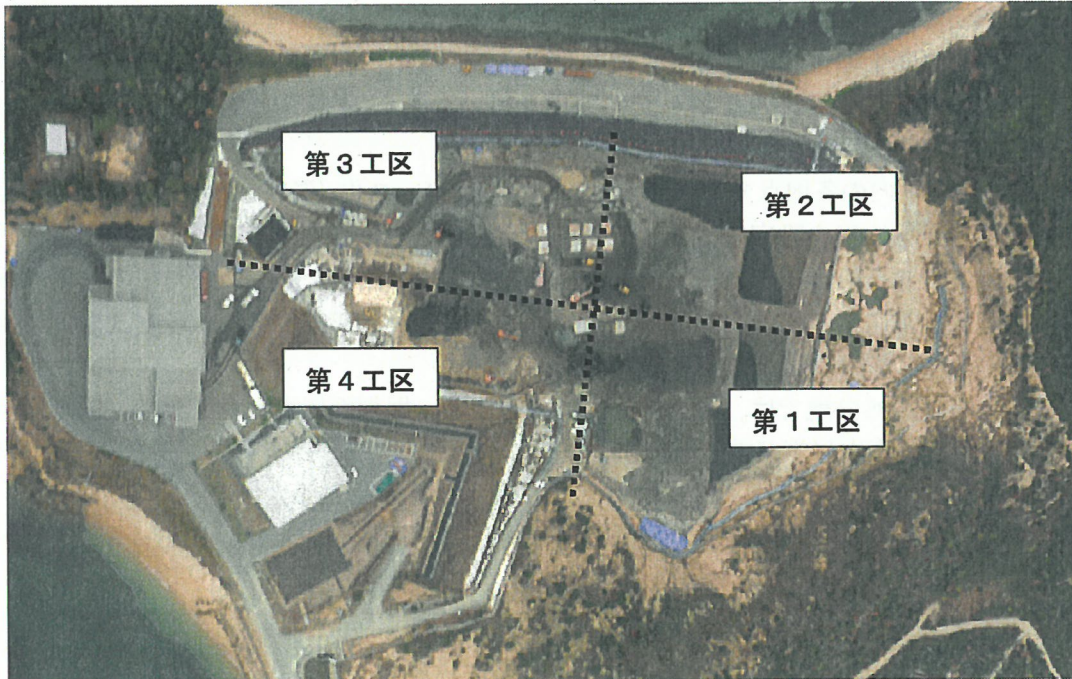


写真 1 豊島処分地 (H23.12.21)

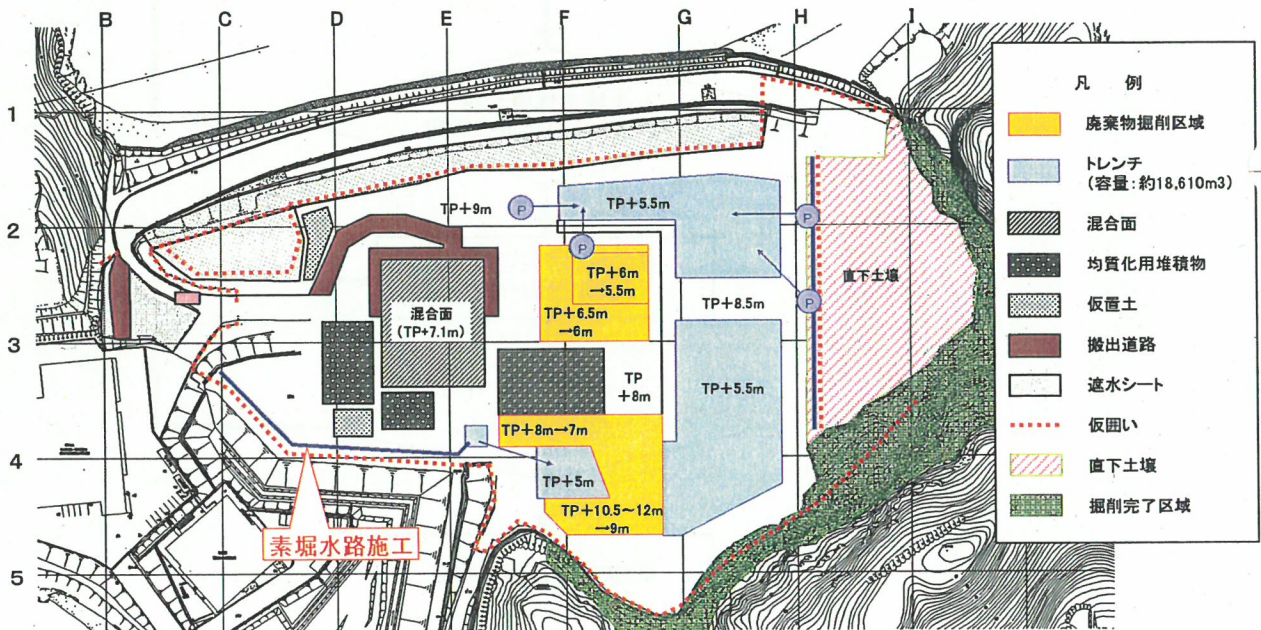


図 2 平成 24 年 3 月掘削状況

(2) 第3次掘削計画策定までの掘削作業計画

平成24年4月から5月にかけては、図3に示す掘削作業を計画しており、第1工区南側の仮囲いを移設し、南トレンチ付近をTP+10.5~12.0mからTP+9.0mまで掘削する。また、FG-23付近においてTP+6.5mからTP+6.0~5.5mまで掘削を行う。また、H測線東側で、汚染土壌の掘削・除去終了後に、第26回管理委員会で審議・承認された貯留トレンチ、管理用道路及び外周排水路の設置を開始する。

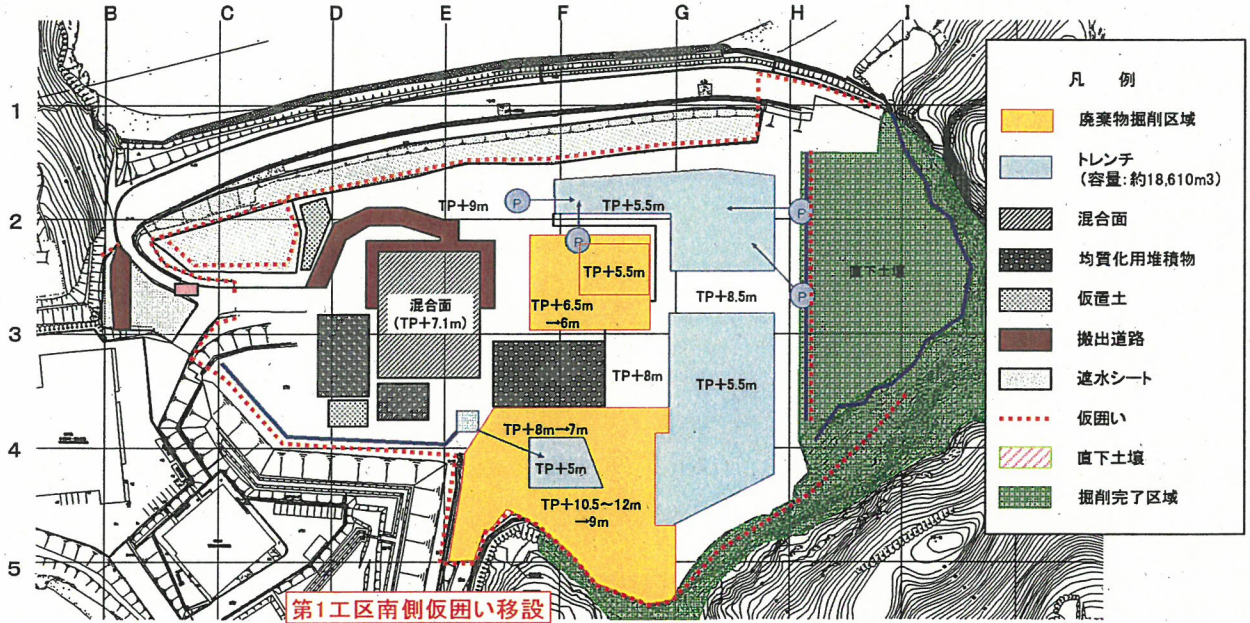


図3 平成24年4月~5月までの掘削作業計画

平成24年6月から7月にかけては、図4に示す掘削作業を計画している。4測線の南側をTP+9.0mからTP+7.0mまで掘削し、CD-34付近(第4工区)をTP+11.0mから7.0mまで、D3付近をTP+7.0から6.0mまで掘削する。また、H測線東側に設置した貯留トレンチに、南東トレンチの貯留水を送水した後、南東トレンチ周辺部をTP+7.0mまで掘削する。

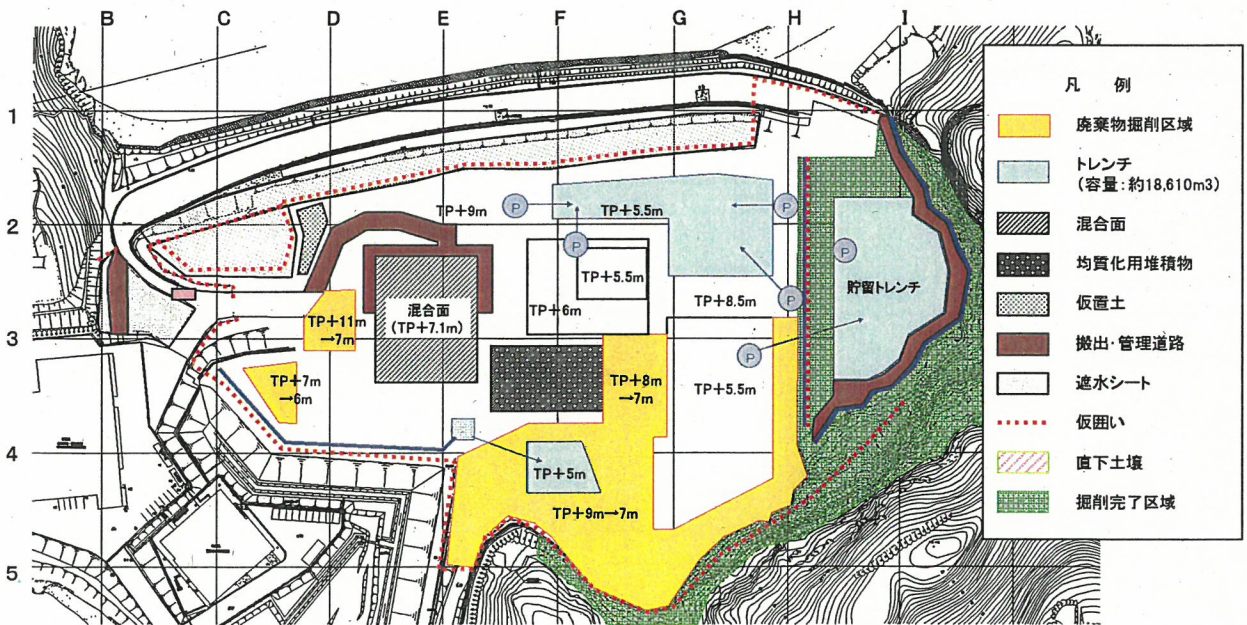


図4 平成24年6月~7月までの掘削作業計画

(2) 第3次掘削計画策定までの掘削作業計画

平成24年4月から5月にかけては、図3に示す掘削作業を計画しており、第1工区南側の仮囲いを移設し、南トレンチ付近をTP+10.5~12.0mからTP+9.0mまで掘削する。また、FG-23付近においてTP+6.5mからTP+6.0~5.5mまで掘削を行う。また、H測線東側で、汚染土壌の掘削・除去終了後に、第26回管理委員会で審議・承認された貯留トレンチ、管理用道路及び外周排水路の設置を開始する。

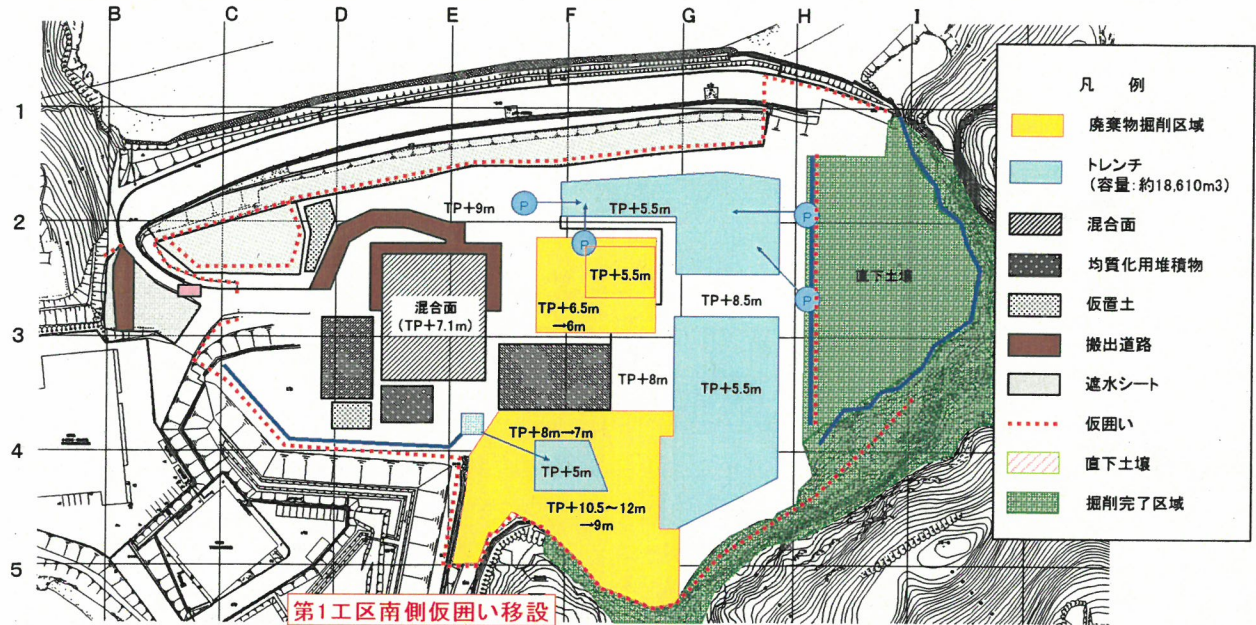


図3 平成24年4月~5月までの掘削作業計画

平成24年6月から7月にかけては、図4に示す掘削作業を計画している。4測線の南側をTP+9.0mからTP+7.0mまで掘削し、CD-34付近(第4工区)をTP+7.0mからTP+6.0mまで、D3付近をTP+11.0mからTP+7.0mまで掘削する。また、H測線東側に設置した貯留トレンチに、南東トレンチの貯留水を送水した後、南東トレンチ周辺部をTP+7.0mまで掘削する。

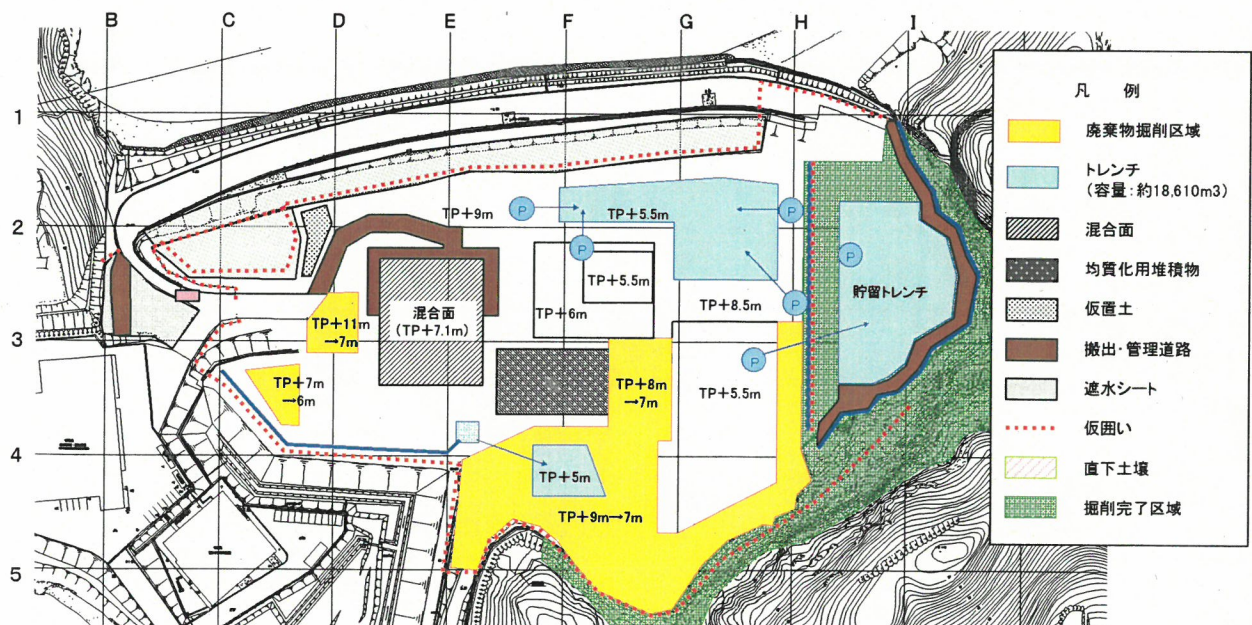


図4 平成24年6月~7月までの掘削作業計画

豊島廃棄物等の性状データベース化について

1. 目的

調停条項に定められた期限までに全量処理するためには、残存する廃棄物等の性状及び量を把握し、安定的、効率的な溶融処理が可能となる掘削計画を策定する必要がある。

そのため、公害等調整委員会の調査結果とこれまでに実施した廃棄物等性状調査の結果を用いて、各地点における廃棄物等性状及び量に関するデータを電子化した。

2. 構築方法

(1) 構築方法と設定条件

廃棄物等性状は、公害等調整委員会が平成 7 年に行った調査結果をベースとし、平成 23 年度より実施している廃棄物等性状調査の結果を反映させ、データを取りまとめた。廃棄物等種類は表 1 のとおり 7 種類に分類し、地点ごとに廃棄物等種類、体積、密度、重量、土壌比率及び廃棄物中土壌量を示した。なお、第 3 工区に保管している仮置き土については、セメント原料化を検討していることから、今回のデータベースからは除外した。

(2) データベースの各項目について

1) 体積 (m³)

処分地内の区画分けは、可能な限り処分地内の状況を反映させるために、これまでの掘削計画に利用されてきた 50m×50m メッシュを更に細分割した 25m×25m メッシュとし、平成 24 年 1 月末現在の廃棄物高さと、公調委調査結果を廃棄物等性状調査結果で更新したデータから、各区画での廃棄物種類ごとの体積を求めた。

2) 換算体積 (m³)

法面部分等メッシュ内が平滑でない部分については、体積に係数を乗じて換算した。

3) 廃棄物密度 (t/m³)

平成 23 年 3 月から 6 月に実施した測量結果による廃棄物密度から表 1 のとおり設定した。

4) 廃棄物重量 (t)

体積に廃棄物等密度を乗じて算出した。

5) 土壌比率 (%)

土壌比率については、表 1 に記載の根拠をもとに設定した。

6) 廃棄物中土壌量 (t)

廃棄物重量に土壌比率を乗じて算出した。

表1 廃棄物等種類と密度及び土壌比率の設定

廃棄物等種類	密度(t/m ³)	土壌比率(%)	土壌比率根拠
シュレッダーダスト主体廃棄物	1.31	21.0	H15年～H23年12月までの分析結果平均値
土壌主体廃棄物	1.75	88.7	H15年～H23年12月までの分析結果平均値
土壌主体廃棄物(第4工区)	1.39	81.6	H23年廃棄物等性状調査結果
鉱さい	1.75	35.6	ボーリングサンプル分析結果(クボタ)
燃え殻	1.31	41.6	ボーリングサンプル分析結果(クボタ)
周辺廃棄物等	1.75	88.7	土壌主体廃棄物と同じとした。
つぼ堀廃棄物等	1.31	21.0	SD主体廃棄物と同じとした。

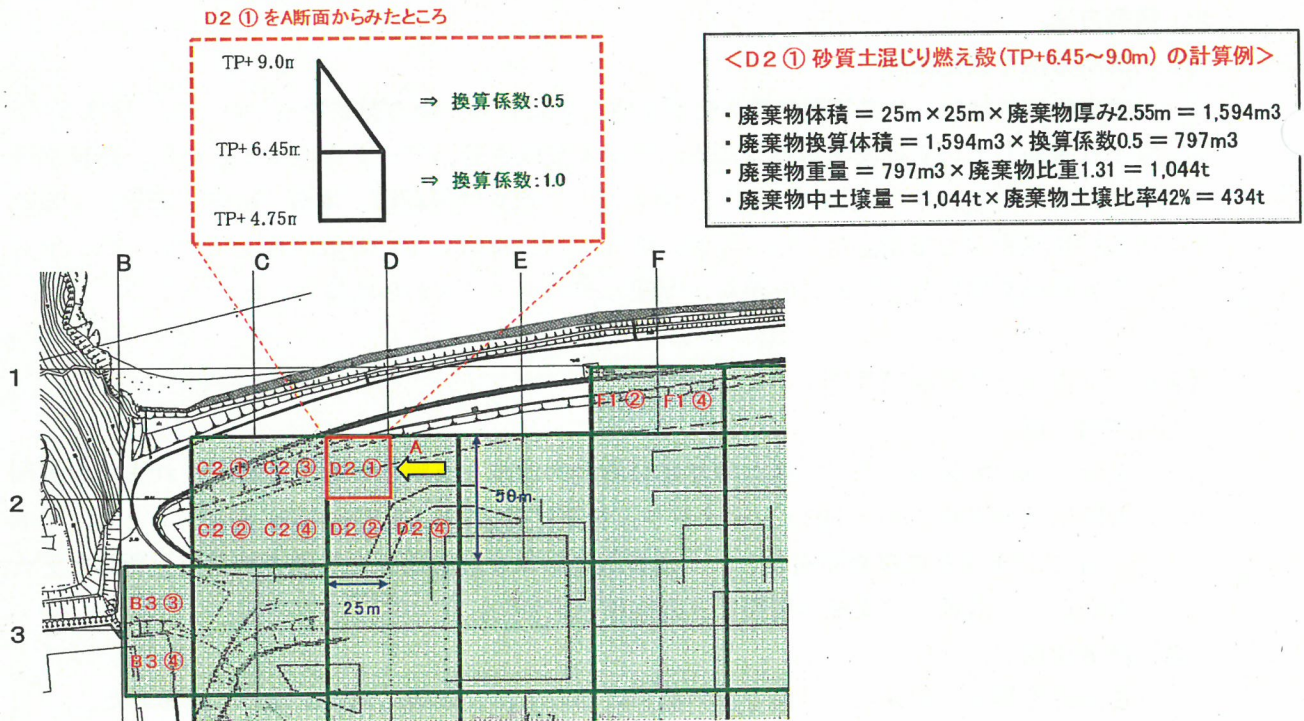


図1 データベースの計算方法例(D2)

表2 計算結果例(D2)

地点	廃棄物高さ TP	廃棄物厚み m	廃棄物等種類	1)		2)		3)		4)		5)		6)		備考
				廃棄物 体積 m ³	換算 係数	廃棄物 換算体積 m ³	換算係数	廃棄物 密度 t/m ³	廃棄物 重量 t	廃棄物 土壌比率 %	廃棄物 土壌量 t					
D2	①	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	廃棄物性状調査結果を反映
		6.45	2.55	砂質土混じり燃え殻	1,594	0.50	797	1.31	1,044	42	434	—	—	—	—	
		4.75	1.70	汚泥	1,063	1.00	1,063	1.31	1,392	42	579	—	—	—	—	
	②	7.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	廃棄物性状調査結果を反映
		6.45	1.05	砂質土混じり燃え殻	656	1.00	656	1.31	860	42	358	—	—	—	—	
		4.75	1.70	汚泥	1,063	1.00	1,063	1.31	1,392	42	579	—	—	—	—	
	③	9.00	—	—	—	0.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	廃棄物性状調査結果を反映
		6.45	2.55	砂質土混じり燃え殻	1,594	—	1,195	1.31	1,566	42	651	—	—	—	—	
		4.75	1.70	汚泥	1,063	1.00	1,063	1.31	1,392	42	579	—	—	—	—	
	④	7.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	廃棄物性状調査結果を反映
		6.45	1.05	砂質土混じり燃え殻	656	1.00	656	1.31	860	42	358	—	—	—	—	
		4.75	1.70	汚泥	1,063	1.00	1,063	1.31	1,392	42	579	—	—	—	—	

公調委データに、廃棄物等性状調査の結果を反映させた箇所は橙色で色付けた。

3. 廃棄物等性状調査結果の反映

別紙のとおり作成したデータベースから集計した平成24年1月末時点での各工区における廃棄物種類ごとの残量を表3に、存在割合を図2に示す。第4工区では、平成23年度の廃棄物等性状調査で、土壌主体廃棄物が多く確認されたことから、廃棄物等の存在割合が大きくなっている。

表3 各工区における廃棄物種類ごとの残量

(1) 廃棄物等性状調査結果を反映させた場合

廃棄物等種類	単位:t				
	第1工区	第2工区	第3工区	第4工区	合計
シュレッダーダスト主体廃棄物	50,601	42,254	39,226	15,945	148,026
土壌主体廃棄物	656	0	11,714	27,776	40,146
鉱さい	8,750	1,641	4,922	1,094	16,407
燃え殻	2,866	15,294	15,890	0	34,050
周辺廃棄物等	6,087	8,115	6,425	6,425	27,052
つぼ堀廃棄物等	3,734	4,978	3,941	3,941	16,594
合計	72,694	72,282	82,118	55,181	282,275

参考)H24.1末時点での仮置き土を除いた廃棄物等残量(推定)は、約297千トン

(2) 公調委調査結果のみ

廃棄物種類	単位:t				
	第1工区	第2工区	第3工区	第4工区	合計
シュレッダーダスト主体廃棄物	42,110	39,887	47,494	30,529	160,021
土壌主体廃棄物	656	0	547	4,344	5,547
鉱さい	8,750	1,641	4,922	1,094	16,406
燃え殻	13,141	19,838	14,672	6,812	54,463
周辺廃棄物等	6,087	8,115	6,425	6,425	27,052
つぼ堀廃棄物等	3,734	4,978	3,941	3,941	16,594
合計	74,478	74,460	78,000	53,144	280,082

参考)H24.1末時点での仮置き土を除いた廃棄物等残量(推定)は、約297千トン

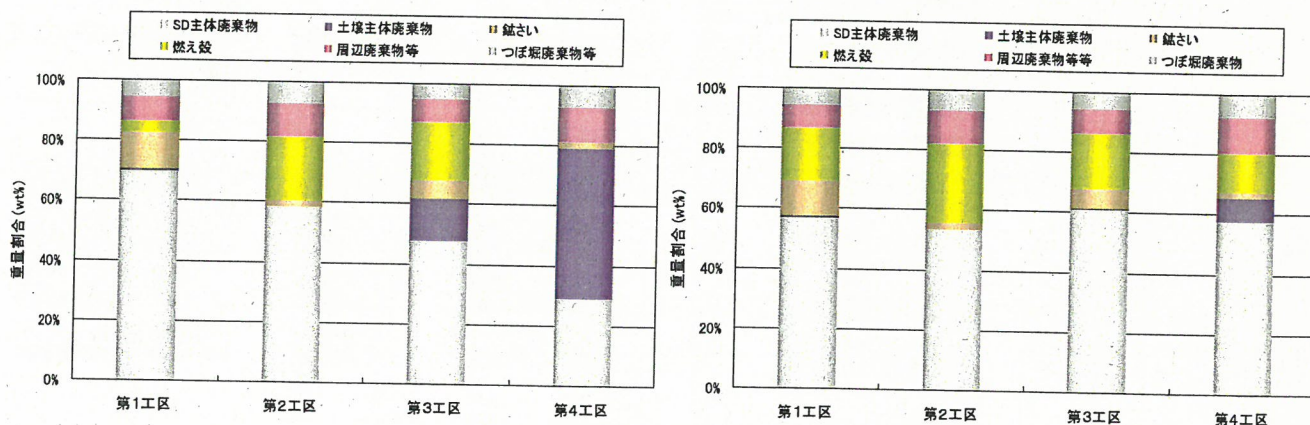


図2 廃棄物等種類ごとの存在割合

4. 均質化物土壌比率

データベースの集計結果から、処分地全体の土壌比率は40%と推定され、これまでの試算よりも高い土壌比率となっていた。

5. 今後の計画

今後も廃棄物等性状調査を実施し、データベースを更新しながら、これを活用して、均質化物の土壌比率を設定していく。その際、均質化物中の土壌比率が低くなると熔融処理量が低下することから、土壌主体廃棄物のセメント原料化と効果的な熔融処理が両立できるよう各処理量のバランスを設定する。また、最後まで安定的で効率的な処理を行うため、特定の廃棄物等類が残存しないように掘削計画を作成する。

(別紙)

廃棄物等性状データベース (平成24年1月末時点)

地点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	備考		
												TP	m
B3	③	13.42	—	—	—	0.50	—	—	—	—	—	—	
		9.00	4.42	土壌主体廃棄物	2,763	—	—	1,381	1.75	2,417	89	2,144	廃棄物性状調査結果を反映
	④	13.42	—	—	—	0.25	—	—	—	—	—	—	
		9.00	4.42	燃え殻混じりSD	2,763	—	—	691	1.31	905	21	190	—
C2	①	12.31	—	—	—	0.25	—	—	—	—	—	—	
		11.31	1.00	ぬさい	625		156	1.75	273	36	97	—	
		10.31	1.00	粘土混じり砂	625		156	1.75	273	89	243	—	
		7.00	3.31	燃え殻混じりSD	2,069		517	1.31	678	21	142	—	
		5.31	1.69	燃え殻混じりSD	1,056		1,056	1.31	1,384	21	291	—	
		4.31	1.00	砂混じりSD	625		625	1.31	819	21	172	—	
		9.00	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—
		5.31	3.69	燃え殻混じりSD	2,306		2,306	1.31	3,021	21	634	—	
	②	4.31	1.00	砂混じりSD	625	625	1.31	819	21	172	—		
		12.31	—	—	—	0.25	—	—	—	—	—	—	
		11.31	1.00	ぬさい	625		156	1.75	273	36	97	—	
		10.31	1.00	粘土混じり砂	625		156	1.75	273	89	243	—	
		7.00	3.31	燃え殻混じりSD	2,069		517	1.31	678	21	142	—	
		5.31	1.69	燃え殻混じりSD	1,056		1,056	1.31	1,384	21	291	—	
		4.31	1.00	砂混じりSD	625		625	1.31	819	21	172	—	
		9.00	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—
5.31	3.69	燃え殻混じりSD	2,306	2,306	1.31		3,021	21	634	—			
C3	①	11.46	—	—	—	1.00	—	—	—	—	—	—	
		8.46	2.00	ぬさい	1,250		1,250	1.75	2,188	36	779	—	
		4.46	4.00	燃え殻混じりSD	2,500		2,500	1.31	3,275	21	688	—	
		11.46	—	—	—		—	—	—	—	—	—	
	②	8.46	2.00	ぬさい	1,250	625	1.75	1,094	36	389	—		
		7.00	1.46	燃え殻混じりSD	913	456	1.31	598	21	126	—		
		4.46	2.54	燃え殻混じりSD	1,588	1,588	1.31	2,080	21	437	—		
		11.46	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	③	8.46	2.00	ぬさい	1,250	1,250	1.75	2,188	36	779	—		
		4.46	4.00	燃え殻混じりSD	2,500	2,500	1.31	3,275	21	688	—		
		7.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
		4.46	2.54	土壌主体廃棄物(第4)	1,588	1,588	1.39	2,207	82	1,801	廃棄物性状調査結果を反映		
	④	7.00	—	—	—	0.50	—	—	—	—	—	—	
		4.46	2.54	土壌主体廃棄物(第4)	1,588		366	1.31	479	21	101	—	
		7.00	—	—	731		1,563	1.39	2,172	82	1,772	—	
		5.83	1.17	燃え殻混じりSD	731		1,563	1.39	2,172	82	1,772	—	
D2	①	9.00	—	—	—	0.50	—	—	—	—	—	—	
		6.45	2.55	砂質土混じり燃え殻	1,594		797	1.31	1,044	42	434	廃棄物性状調査結果を反映	
		4.75	1.70	汚泥	1,063		1,063	1.31	1,392	42	579	廃棄物性状調査結果を反映	
		7.50	—	—	—		—	—	—	—	—	—	
	②	6.45	1.05	砂質土混じり燃え殻	656	656	1.31	860	42	358	廃棄物性状調査結果を反映		
		4.75	1.70	汚泥	1,063	1,063	1.31	1,392	42	579	廃棄物性状調査結果を反映		
		9.00	—	—	—	0.75	—	—	—	—	—	—	
		6.45	2.55	砂質土混じり燃え殻	1,594		1,195	1.31	1,566	42	651	廃棄物性状調査結果を反映	
	4.75	1.70	汚泥	1,063	1,063		1.31	1,392	42	579	廃棄物性状調査結果を反映		
	7.50	—	—	—	—		—	—	—	—	—		
	③	6.45	1.05	砂質土混じり燃え殻	656	656	1.31	860	42	358	廃棄物性状調査結果を反映		
		4.75	1.70	汚泥	1,063	1,063	1.31	1,392	42	579	廃棄物性状調査結果を反映		
		9.00	—	—	—	1.00	—	—	—	—	—	—	
		6.45	2.55	砂質土混じり燃え殻	1,594		1,250	1.31	1,638	21	344	—	
	4.75	1.70	汚泥	1,063	1,850		1.31	2,424	42	1,008	—		
	7.00	—	—	—	—		—	—	—	—	—		
D3	①	9.00	—	—	—	1.00	—	—	—	—	—	—	
		7.00	2.00	燃え殻混じりSD	1,250		1,250	1.31	1,638	21	344	—	
		4.04	2.96	燃え殻	1,850		1,850	1.31	2,424	42	1,008	—	
		7.00	—	—	—		—	—	—	—	—	—	
	②	4.04	2.96	土壌主体廃棄物(第4)	1,850	1,850	1.39	2,572	82	2,098	廃棄物性状調査結果を反映		
		7.50	—	—	—	0.50	—	—	—	—	—	—	
		7.00	0.50	燃え殻混じりSD	313		156	1.31	205	21	43	—	
		4.04	2.96	燃え殻	1,850		1,850	1.31	2,424	42	1,008	—	
	7.00	—	—	—	—		—	—	—	—	—		
	③	4.04	2.96	土壌主体廃棄物(第4)	1,850	1,850	1.39	2,572	82	2,098	廃棄物性状調査結果を反映		
		7.00	—	—	—	1.00	—	—	—	—	—	—	
		6.17	—	—	—		—	—	—	—	—	—	
		4.37	1.80	土壌主体廃棄物(第4)	1,125		1,125	1.39	1,564	82	1,276	廃棄物性状調査結果を反映	
	6.17	—	—	—	—		—	—	—	—	—		
	④	4.37	1.80	土壌主体廃棄物(第4)	1,125	1,125	1.39	1,564	82	1,276	廃棄物性状調査結果を反映		
		6.17	—	—	—	0.25	—	—	—	—	—	—	
4.37		1.80	土壌主体廃棄物(第4)	1,125	281		1.39	391	82	319	廃棄物性状調査結果を反映		
6.17		—	—	—	—		—	—	—	—	—		
4.37	1.80	土壌主体廃棄物(第4)	1,125	281	1.39		391	82	319	廃棄物性状調査結果を反映			
E2	①	9.00	—	—	—	1.00	—	—	—	—	—	—	
		4.98	4.02	燃え殻混じりSD	2,513		2,513	1.31	3,291	21	691	—	
		4.28	0.70	燃え殻	438		438	1.31	573	42	238	—	
		7.00	—	—	—		—	—	—	—	—	—	
	②	4.98	2.02	燃え殻混じりSD	1,263	1,263	1.31	1,654	21	347	—		
		4.28	0.70	燃え殻	438	438	1.31	573	42	238	—		
		9.00	—	—	—	1.00	—	—	—	—	—	—	
		4.98	4.02	燃え殻混じりSD	2,513		2,513	1.31	3,291	21	691	—	
	3.90	1.08	汚泥混じりSD	675	675		1.31	884	21	186	廃棄物性状調査結果を反映		
	6.50	—	—	—	—		—	—	—	—	—		
	③	4.98	1.52	燃え殻混じりSD	950	950	1.31	1,245	21	261	—		
		3.90	1.08	汚泥混じりSD	675	675	1.31	884	21	186	廃棄物性状調査結果を反映		
		9.00	—	—	—	1.00	—	—	—	—	—	—	
		4.98	4.02	燃え殻混じりSD	2,513		2,513	1.31	3,291	21	691	—	
	3.90	1.08	汚泥混じりSD	675	675		1.31	884	21	186	廃棄物性状調査結果を反映		
	6.50	—	—	—	—		—	—	—	—	—		

公調委データに、廃棄物等性状調査の結果を反映させた箇所は橙色で示した。

地点	廃棄物高さ	廃棄物厚み	廃棄物等種類	廃棄物体積	換算係数	廃棄物換算体積	廃棄物密度	廃棄物重量	廃棄物土壌比率	廃棄物中土壌量	備考		
	TP	m				m ³	m ³	t/m ³	t	%		t	
E3	①	7.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
		4.62	2.38	砂質土、ぬき、汚泥	1,488	1.00	1,488	1.75	2,603	89	2,309	廃棄物性状調査結果を反映	
	3.00	1.62	粘性土、汚泥	1,013	—	1,013	1.75	1,772	89	1,572	廃棄物性状調査結果を反映		
	7.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	②	4.62	2.38	砂質土、ぬき、汚泥	1,488	1.00	1,488	1.39	2,068	82	1,687	廃棄物性状調査結果を反映	
		3.00	1.62	粘性土、汚泥	1,013	—	1,013	1.39	1,407	82	1,148	廃棄物性状調査結果を反映	
	7.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	③	4.62	2.38	砂質土、ぬき、汚泥	1,488	1.00	1,488	1.39	2,068	82	1,687	廃棄物性状調査結果を反映	
		3.00	1.62	粘性土、汚泥	1,013	—	1,013	1.39	1,407	82	1,148	廃棄物性状調査結果を反映	
	7.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	④	4.62	2.38	砂質土、ぬき、汚泥	1,488	1.00	1,488	1.75	2,603	89	2,309	廃棄物性状調査結果を反映	
		3.00	1.62	粘性土、汚泥	1,013	—	1,013	1.75	1,772	89	1,572	廃棄物性状調査結果を反映	
7.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
E4	①	7.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
		2.19	4.81	土壌主体廃棄物(第4)	3,006	1.00	3,006	1.39	4,179	82	3,410	廃棄物性状調査結果を反映	
	7.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	②	4.00	3.00	土壌主体廃棄物(第4)	1,875	0.25	469	1.39	652	82	532	廃棄物性状調査結果を反映	
		2.19	1.81	土壌主体廃棄物(第4)	1,131	0.25	283	1.39	393	82	321	廃棄物性状調査結果を反映	
	12.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	③	7.00	5.00	砂質土混じりSD	3,125	0.75	2,344	1.31	3,070	21	645	—	
		2.19	4.81	砂質土混じりSD	3,006	1.00	3,006	1.31	3,938	21	827	—	
	10.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	④	7.00	3.00	砂質土混じりSD	1,875	0.75	1,406	1.31	1,842	21	387	—	
		2.19	4.81	砂質土混じりSD	3,006	1.00	3,006	1.31	3,938	21	827	—	
	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
F1	②	5.38	3.62	燃え殻混じりSD	2,263	0.25	566	1.31	741	21	156	—	
		2.38	3.00	燃え殻混じりSD	1,875	1.00	1,875	1.31	2,456	21	516	—	
	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	④	5.38	3.62	燃え殻混じりSD	2,263	0.25	566	1.31	741	21	156	—	
		2.38	3.00	燃え殻混じりSD	1,875	1.00	1,875	1.31	2,456	21	516	—	
	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	F2	①	6.52	2.48	燃え殻混じりSD	1,550	1.00	1,550	1.31	2,031	21	426	—
			3.72	2.80	燃え殻	1,750	—	1,750	1.31	2,293	42	954	—
		6.52	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		②	6.52	0.00	燃え殻混じりSD	0	1.00	0	1.31	0	21	0	—
			3.72	2.80	燃え殻	1,750	—	1,750	1.31	2,293	42	954	—
		5.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
③		5.50	0.00	燃え殻混じりSD	0	0.50	0	1.31	0	21	0	—	
		5.50	0.00	燃え殻	0	—	0	1.31	0	42	0	—	
3.72		1.78	燃え殻	1,113	1.00	1,113	1.31	1,457	42	606	—		
6.52		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
④		6.52	0.00	燃え殻混じりSD	0	1.00	0	1.31	0	21	0	—	
		4.26	2.32	汚泥混じりSD	1,450	—	1,450	1.31	1,900	21	399	廃棄物性状調査結果を反映	
6.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
F3	①	5.00	1.50	燃え殻混じりSD	938	1.00	938	1.31	1,228	21	258	—	
		2.25	2.75	砂混じり燃え殻	1,719	—	1,719	1.31	2,252	42	937	—	
	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	②	5.00	4.00	燃え殻混じりSD	2,500	1.00	2,500	1.31	3,275	21	688	—	
		2.25	2.75	砂混じり燃え殻	1,719	—	1,719	1.31	2,252	42	937	—	
	6.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	③	5.00	1.50	燃え殻混じりSD	938	1.00	938	1.31	1,228	21	258	—	
		4.80	0.20	SD	125	—	125	1.31	164	21	34	廃棄物性状調査結果を反映	
	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	④	5.00	4.00	燃え殻混じりSD	2,500	1.00	2,500	1.31	3,275	21	688	—	
		4.80	0.20	SD	125	—	125	1.31	164	21	34	廃棄物性状調査結果を反映	
	10.82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
F4	①	6.82	4.00	燃え殻混じりSD	2,500	1.00	2,500	1.31	3,275	21	688	—	
		4.82	2.00	泥状ぬき	1,250	—	1,250	1.75	2,188	36	779	—	
	10.82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	②	6.82	4.00	燃え殻混じりSD	2,500	0.50	1,250	1.31	1,638	21	344	—	
		4.82	2.00	泥状ぬき	1,250	1.00	1,250	1.75	2,188	36	779	—	
	10.82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	③	6.82	4.00	燃え殻混じりSD	2,500	1.00	2,500	1.31	3,275	21	688	—	
		4.82	2.00	泥状ぬき	1,250	—	1,250	1.75	2,188	36	779	—	
	6.82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	④	6.82	—	—	—	1.00	1,250	1.75	2,188	36	779	—	
		4.82	2.00	泥状ぬき	1,250	—	1,250	1.75	2,188	36	779	—	
	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
G1	②	9.00	—	—	—	0.75	—	—	—	—	—		
		6.00	3.00	燃え殻混じりSD	1,875	—	1,406	1.31	1,842	21	387	—	
	4.66	1.34	燃え殻混じりSD	838	1.00	838	1.31	1,097	21	230	—		
	2.76	1.90	汚泥混じり燃え殻	1,188	—	1,188	1.31	1,556	42	647	—		
	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	④	6.00	3.00	燃え殻混じりSD	1,875	0.75	1,406	1.31	1,842	21	387	—	
		4.66	1.34	燃え殻混じりSD	838	1.00	838	1.31	1,097	21	230	—	
	2.76	1.90	汚泥混じり燃え殻	1,188	—	1,188	1.31	1,556	42	647	—		
	5.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	G2	①	4.83	0.67	燃え殻混じりSD	419	1.00	419	1.31	549	21	115	—
			3.83	1.00	砂混じり燃え殻	625	—	625	1.31	819	42	341	—
		8.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
②		4.83	3.67	燃え殻混じりSD	2,294	1.00	2,294	1.31	3,005	21	631	—	
		3.83	1.00	砂混じり燃え殻	625	—	625	1.31	819	42	341	—	
5.50		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
③		4.83	0.67	燃え殻混じりSD	419	1.00	419	1.31	549	21	115	—	
		3.83	1.00	砂混じり燃え殻	625	—	625	1.31	819	42	341	—	
9.00		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
④		5.50	3.50	燃え殻混じりSD	2,188	0.50	1,094	1.31	1,433	21	301	—	
		4.83	0.67	燃え殻混じりSD	419	1.00	419	1.31	549	21	115	—	
3.83		1.00	砂混じり燃え殻	625	—	625	1.31	819	42	341	—		
9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
G3	①	9.00	—	—	—	1.00	—	—	—	—	—		
		4.37	4.63	燃え殻混じりSD	2,894	—	2,894	1.31	3,791	21	796	—	
	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	②	4.37	4.63	燃え殻混じりSD	2,894	1.00	2,894	1.31	3,791	21	796	—	
		9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	③	5.50	3.50	燃え殻混じりSD	2,188	0.75	—	—	—	—	—	—	
		4.00	1.50	燃え殻混じりSD	938	1.00	1,641	1.31	2,149	21	451	—	
	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	④	5.50	3.50	燃え殻混じりSD	2,188	0.50	1,094	1.31	1,433	21	301	—	
		4.00	1.50	燃え殻混じりSD	938	1.00	938	1.31	1,228	21	258	廃棄物性状調査結果を反映	
	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

公調委データに、廃棄物等性状調査の結果を反映させた箇所は橙色で示した。

地点	廃棄物高さ	廃棄物厚み	廃棄物等種類	廃棄物体積	換算係数	廃棄物換算体積	廃棄物密度	廃棄物重量	廃棄物土壌比率	廃棄物中土壌量	備考
	TP	m		m ³		m ³	t/m ³	t	%	t	
G4	①	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		6.55	2.45	燃え殻混じりSD	1,531	1.00	1,531	1.31	2,006	21	421
		5.15	1.40	SD	875	—	875	1.31	1,146	21	241
		5.00	0.15	砂質土	94	—	94	1.75	164	89	146
		2.55	2.45	SD	1,531	—	1,531	1.31	2,006	21	421
		10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	②	6.55	4.10	燃え殻混じりSD	2,563	1.00	2,563	1.31	3,357	21	705
		5.15	1.40	SD	875	—	875	1.31	1,146	21	241
		5.00	0.15	砂質土	94	—	94	1.75	164	89	146
		2.55	2.45	SD	1,531	—	1,531	1.31	2,006	21	421
		10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.50	5.15	燃え殻混じりSD	3,219	0.50	1,609	1.31	2,108	21	443
	③	5.15	0.35	SD	219	—	219	1.31	287	21	60
		5.00	0.15	砂質土	94	1.00	94	1.75	164	89	146
		2.55	2.45	SD	1,531	—	1,531	1.31	2,006	21	421
		10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.15	0.35	SD	219	1.00	219	1.31	287	21	60
	④	5.00	0.15	砂質土	94	—	94	1.75	164	89	146
		2.55	2.45	SD	1,531	—	1,531	1.31	2,006	21	421
		10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.09	0.56	砂質土混じりSD	350	1.00	350	1.31	459	21	96
		5.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.09	0.56	砂質土混じりSD	350	1.00	350	1.31	459	21	96
H2	①	9.00	—	—	—	0.50	1,094	1.31	1,433	21	301
		5.50	3.50	SD	2,188	—	531	1.31	696	21	146
		4.65	0.85	SD	531	1.00	375	1.75	656	36	234
		4.05	0.60	乾さい	375	—	—	—	—	—	—
		9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.50	3.50	SD	2,188	0.50	1,094	1.31	1,433	21	301
	②	4.65	0.85	SD	531	—	531	1.31	696	21	146
		4.05	0.60	乾さい	375	1.00	375	1.75	656	36	234
		9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		4.86	4.14	SD	2,588	0.25	647	1.31	847	21	178
		4.65	0.21	SD	131	—	33	1.31	43	21	9
		4.05	0.60	乾さい	375	0.25	94	1.75	164	36	58
	③	9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		4.86	4.14	SD	2,588	0.25	647	1.31	847	21	178
		4.65	0.21	SD	131	—	33	1.31	43	21	9
		4.05	0.60	乾さい	375	0.25	94	1.75	164	36	58
		9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		4.86	4.14	SD	2,588	0.25	647	1.31	847	21	178
	④	4.65	0.21	SD	131	—	33	1.31	43	21	9
		4.05	0.60	乾さい	375	0.25	94	1.75	164	36	58
		9.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		10.65	—	—	—	0.50	—	—	—	—	—
		5.40	5.25	燃え殻混じりSD	3,281	—	1,641	1.31	2,149	21	451
		4.80	0.60	燃え殻	375	1.00	375	1.31	491	42	204
H3	①	10.65	—	—	—	0.50	—	—	—	—	—
		5.40	5.25	燃え殻混じりSD	3,281	—	1,641	1.31	2,149	21	451
		4.80	0.60	燃え殻	375	1.00	375	1.31	491	42	204
		10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.40	5.25	燃え殻混じりSD	3,281	0.50	1,641	1.31	2,149	21	451
		4.80	0.60	燃え殻	375	1.00	375	1.31	491	42	204
	②	10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.40	5.25	燃え殻混じりSD	3,281	0.25	820	1.31	1,075	21	226
		4.80	0.60	燃え殻	375	—	94	1.31	123	42	51
		10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.40	5.25	燃え殻混じりSD	3,281	0.25	820	1.31	1,075	21	226
		4.80	0.60	燃え殻	375	—	94	1.31	123	42	51
H4	①	10.65	—	—	—	0.50	—	—	—	—	—
		5.97	4.68	燃え殻混じりSD	2,925	—	1,463	1.31	1,916	21	402
		10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.97	4.68	燃え殻混じりSD	2,925	1.00	2,925	1.31	3,832	21	805
		10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.97	4.68	燃え殻混じりSD	2,925	0.25	731	1.31	958	21	201
	②	10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.97	4.68	燃え殻混じりSD	2,925	0.25	731	1.31	958	21	201
		10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.97	4.68	燃え殻混じりSD	2,925	0.25	731	1.31	958	21	201
		10.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		5.97	4.68	燃え殻混じりSD	2,925	0.25	731	1.31	958	21	201
斜面部周辺廃棄物						5,565	1.75	9,739	89	8,638	
平坦部周辺廃棄物						9,893	1.75	17,313	89	15,356	
つぼ堀廃棄物						12,667	1.31	16,594	21	3,485	
場内移動廃棄物						4,000	1.31	5,240	21	1,100	第3工区南側法面掘削分
合計						203,541		282,275	40	112,208	

公調委データに、廃棄物等性状調査の結果を反映させた箇所は橙色で示した。

廃棄物等性状調査結果一覧（第1～3回）

地点	工区	調査地点	調査日	調査実施高さ	公調委における廃棄物基底	廃棄物基底状況	浸出水の流入位置	廃棄物の種類		含水率 %	灰分 dry-%	溶流温度 ℃	成分(灰中濃度)				指差度 CaO/SiO ₂	土壌比率 dry-%
								公調委調査時	廃棄物性状調査時				SiO ₂ %	CaO %	Al ₂ O ₃ %	Fe ₂ O ₃ %		
1	第1	G+20, 3	H23.6.5	TP+7.0m~9.0m	G3 TP+4.4m	-	なし	燃え殻混りSD	燃え殻混りSD	31.8	83.0	>1,400	56.0	7.9	9.9	17.6	0.14	67
				TP+5.0m~7.0m		-		燃え殻混りSD	燃え殻混りSD	31.5	70.2	1,286	47.3	14.8	8.0	20.3	0.31	37
				TP+4.0m~5.0m		廃棄物基底 (TP+4.0m 公調委データよりやや深い)		燃え殻混りSD	鉱さい混りSD	21.0	78.6	>1,400	47.5	4.1	11.1	22.8	0.09	57
2	第1	G4	H23.6.5	TP+8.3m~10.3m	G4 TP+2.6m	-	TP+4.3m	燃え殻混りSD	燃え殻混りSD	25.8	69.1	>1,400	55.2	8.3	9.9	16.9	0.15	35
				TP+6.3m~8.3m		-		燃え殻混りSD	燃え殻混りSD	27.6	70.7	1,347	48.1	9.7	10.1	20.6	0.20	38
				TP+4.3m~6.3m		-		SD	燃え殻混りSD	28.5	78.0	1,296	43.1	8.6	8.2	30.4	0.20	56
				TP+4.3m		浸出水流入により中止(TP+4.3m) 直下土壌層まで通りつかなかった。		燃え殻	燃え殻混りSD	34.0	78.1	1,310	38.5	9.5	6.3	36.7	0.25	56
3	第2	埋設廃棄物	H23.6.15	表層	-	-	-	製紙汚泥	-	62.3	49.2	>1,400	57.1	3.6	23.8	6.8	0.06	-
4	第3	D+20, 2+10	H23.7.5	TP+5.0m~7.0m	D2 TP+4.8m	浸出水流入により中止(TP+5.0m) 直下土壌層まで通りつかなかった。	TP+5.0m	燃え殻混りSD	燃え殻混りSD	39.0	70.0	1,344	46.8	10.9	9.2	22.9	0.23	37
5	第4	C+30, 3+20		TP+6.0m~7.0m	C3 TP+4.5m	-	TP+4.5m	燃え殻混りSD	砂質土混りSD	19.1	89.0	>1,400	62.4	12.0	2.1	16.2	0.19	81
				TP+4.5m~6.0m		浸出水流入により中止(TP+4.5m) TP+6.0m以下は廃棄物少ない。		燃え殻混りSD	砂質土	22.5	90.5	>1,400	73.1	12.8	1.3	4.6	0.18	85
6	第4	D4		TP+5.3m~6.6m	D4 TP+4.4m	-	なし	燃え殻混りSD	砂質土混りSD	19.9	91.7	>1,400	68.8	14.2	2.4	7.3	0.21	88
				TP+4.3m~5.3m		廃棄物基底 (TP+4.3m 公調委データ通り)		燃え殻混りSD	鉱さい混り燃え殻	21.2	87.7	>1,400	56.4	10.4	4.3	19.8	0.18	78
7	第4	D+20, 3+20	TP+6.3m~7.1m	D3 TP+4.8m	-	TP+4.9m	燃え殻	燃え殻	22.0	92.5	>1,400	70.5	16.5	1.8	5.2	0.23	89	
			TP+4.9m~6.3m		廃棄物基底 (TP+4.9m 公調委データ通り)		燃え殻	鉱さい混り燃え殻	33.2	83.6	>1,400	70.6	15.7	1.7	5.1	0.22	69	
8	第4	E4	TP+5.9m~6.9m	E4 TP+2.2m	-	TP+5.9m (少量)	砂質土混りSD	砂質土混りSD	17.2	92.2	>1,400	66.9	13.3	2.0	10.7	0.20	89	
			TP+4.4m~5.9m		重機のアームが届かず中止した。		砂質土混りSD	砂質土	20.1	92.0	>1,400	62.7	11.2	2.9	15.1	0.18	88	
9	第3	B+10, 2+30 (飛地)	H23.8.30	TP+10.5m~12.5m	-	-	-	鉱さい	-	12.0	98.0	>1,400	22.0	1.3	2.9	68.9	0.06	100
				TP+9.0m~10.5m	-	-	-	鉱さい	-	13.0	99.0	>1,400	18.8	1.0	2.1	73.0	0.06	100

※ 廃棄物等の土壌比率は、SDの灰分を54.3%、土壌の灰分を97.0%として求めた値である。

※2 廃棄物基底標高が公調委データ通りあるいはそれより高いものは橙色で、公調委データより低いものは青色で色付けした。また、廃棄物の種類が公調委データと大きく異なったものは、黄色で色付けした。

地点	工区	調査地点	調査日	調査実施高さ	公調委における廃棄物基底	廃棄物基底状況	浸出水の流入位置	廃棄物の種類		含水率 %	灰分 dry-%	溶流温度 ℃	成分(灰中濃度)				塩基度 -	土壌比率 dry-%
								公調委調査時	廃棄物性状調査時				SiO ₂	CaO	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃		
													%	%	%	%		
10	第4	C+30, 3	H23.11.2	TP+9.0m(表層)	C3 TP+4.5m	-	-	鉱さい	鉱さい	13.0	94.0	>1,350	70.9	1.2	13.6	5.8	0.02	93
11	第4	E3		TP+9.0m~11.0m	E3 TP+3.4m	-	TP+5.0mから油状の流出物あり	燃え殻混りSD	覆土	21.0	81.0	>1,350	38.0	6.9	9.1	35.7	0.18	63
				燃え殻混りSD				砂質土混りSD	27.0	70.0	>1,350	34.3	8.8	8.8	32.5	0.26	37	
				燃え殻混りSD				砂質土混り燃え殻	20.7	89.2	>1,350	58.1	4.2	11.9	14.9	0.07	82	
				燃え殻混りSD				汚泥混り砂質土	19.8	98.8	>1,350	72.3	1.4	14.0	5.2	0.02	100	
				燃え殻混りSD				鉱さい	29.0	81.0	>1,350	42.8	7.1	9.6	25.1	0.17	63	
				燃え殻				汚泥混り粘土	41.4	70.7	>1,350	72.3	7.5	11.1	4.7	0.10	38	
12	第1	F+20, 4+25	H23.11.21	TP+3.0m~5.0m	廃棄物基底 (TP+3.0m 公調委データよりやや深い)	調査孔南壁のTP+10m以下は岩盤であった。	TP+7.0m	燃え殻	粘土	22.6	98.8	>1,350	73.8	1.4	13.1	4.3	0.02	100
				TP+2.5m~3.0m	直下土壌			直下土壌	粘土	22.6	98.8	>1,350	73.8	1.4	13.1	4.3	0.02	100
				TP+12.0m(表層)	-			燃え殻混りSD	表層+0.8m仮置土 以下はSD	13.8	93.4	>1,350	67.1	2.1	11.5	10.0	0.03	92
				TP+10.0m~12.0m	-			燃え殻混りSD	SD	27.5	64.2	1,290	41.9	11.1	7.5	25.0	0.27	25
				TP+8.0m~10.0m	-			燃え殻混りSD	SD	27.2	55.4	1,245	33.2	12.7	4.5	31.9	0.38	3
13	第2	H+10, 3+30	H23.11.21	TP+7.0m~8.0m	H4 TP+7.0m	廃棄物基底 (TP+5.5m 公調委データより深い)	-	燃え殻混りSD	燃え殻混りSD	43.7	62.7	1,316	44.0	12.1	7.1	25.6	0.28	20
				TP+5.5m~8.5m				燃え殻混りSD	燃え殻混りSD	43.7	62.7	1,316	44.0	12.1	7.1	25.6	0.28	20
14	第3	D2	H24.1.16	TP+7.0m~9.0m	D2 TP+4.8m	-	-	燃え殻混りSD	砂質土混り燃え殻	32.0	76.0	>1,350	52.8	5.2	10.6	21.5	0.10	51
				TP+5.0m~7.0m				重機のアームが届かず中止した。	なし	燃え殻	汚泥	34.0	71.0	>1,350	48.6	9.0	10.5	22.3
15	第3	E+20, 2	H24.1.16	TP+4.7m~6.7m	E2 TP+4.3m	-	-	燃え殻混りSD	燃え殻混りSD	38.0	63.0	1,122	30.0	32.8	6.2	21.4	1.08	20
				TP+3.9m~4.7m				廃棄物基底 (TP+3.9m 公調委データよりやや深い)	TP+4.7m	燃え殻	汚泥混りSD	39.0	71.0	1,098	33.6	39.3	6.2	13.1
16	第2	F+20, 2+20	H24.2.7	TP+5.3m~7.1m	F2 TP+3.7m	-	-	燃え殻混りSD	燃え殻混りSD	28.8	79.5	>1,350	52.7	9.6	10.6	16.9	0.18	59
				TP+4.2m~5.3m				廃棄物基底 (TP+4.2m 公調委データより高い)	TP+6.0m	燃え殻	汚泥混りSD	31.1	81.4	>1,350	44.2	7.8	9.4	25.6
17	第1	F+20, 3	H24.1.16	TP+4.8m~6.8m	F3 TP+2.3m	-	-	燃え殻混りSD	SD	34.0	81.0	>1,350	64.6	7.5	11.6	7.7	0.12	63
				TP+4.8m				廃棄物基底 (TP+4.8m 公調委データより高い)	なし	砂混り燃え殻	SD	42.0	65.0	1,289	41.2	23.6	8.5	17.9

※ 廃棄物等の土壌比率は、SDの灰分を54.3%、土壌の灰分を97.0%として求めた値である。

※2 廃棄物基底標高が公調委データ通りあるいはそれより高いものは青色で色付けた。また、廃棄物の種類が公調委データと大きく異なったものは、黄色で色付けた。

平成24年度 豊島廃棄物等処理事業年度計画について

1 運転・維持管理計画

平成23年度2月末実績及び平成24年度の年間処理計画は表1のとおりであり、平成24年度における掘削、中間保管・梱包、特殊前処理物処理、陸上・海上輸送、中間処理及び高度排水処理の各業務の年度計画は、表2のとおりである。

計画作成に当たっては、中間処理施設での年間処理量（第27回管理委員会（H23.12.24）で試算した仮置き土等土壌主体廃棄物の別途処理を行う処理計画量）を基礎に豊島処分地での掘削量や廃棄物運搬船の航行日数を調整して作成するものとする。

溶融炉の1炉・1日当たりの処理量を98t、2炉の延べ運転日数を定期点検等を除いた634日としたこと、また、キルン炉処理を1日当たり18t、運転日数を300日としたことから、平成24年度の豊島における掘削量は67,532t、作業日数は250日となり、廃棄物運搬船の運転日数は221日となる。

また、ユーティリティの使用量については平成23年度の実績値から、特殊前処理物処理量については平成15年～23年度の実績値から推計している。

直下汚染土壌の水洗浄処理については、平成24年度は、処分地H測線東側区域のみ掘削を行い、輸送量及び処理量は2,000tを予定している。

高度排水処理施設の運転は、生物処理設備の点検・整備を実施するため、運転日数は338日で、1日当たりの平均処理量を80m³とし、27,040m³の処理を予定している。

表1 年間処理計画

区分	平成23年度		平成24年度 計画
	計画	2月末実績 (3月末推計)	
中間 処理	2炉延べ運転日数	625	634
	処理量(t/1炉・日)	105	98
溶融炉	年間処理量(t)	65,625	62,132
	運転日数	299	300
ロータリーキルン炉	処理量(t/日)	20	18
	年間処理量(t)	5,980	5,400
中間処理量(t)	71,605	63,375	67,532
特殊前処理	年間処理量(t)	108	129
水洗浄処理	年間処理量(t)	28,900	2,000
処理量合計(t)	100,613	63,627	69,661

2 副成物の有効利用計画

平成24年度における溶融飛灰や溶融スラグなどの副成物の有効利用計画は、表3のとおり、平成23年度の実績を基礎に運転日数や処理量を考慮して作成した。

3 環境計測、周辺環境モニタリング及び作業環境測定計画

平成24年度における環境計測、周辺環境モニタリング及び作業環境測定計画は、これまでの調査結果などを踏まえ、表4のとおり作成した。

表2 運転・維持管理計画

運転・維持管理年度計画(24年度)		項目												合計	適用
計画名	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
中間保管・梱包	作業日数	日	21	21	21	21	23	20	22	22	20	19	19	21	250
	梱包日数	日	6,366	6,382	5,440	5,600	6,580	5,136	4,922	6,366	6,634	2,176	5,938	5,992	67,532
	作業日数	日	21	21	21	21	23	20	22	22	20	19	19	21	250
	積込量	t	6,366	6,382	5,440	5,600	6,580	5,136	4,922	6,366	6,634	2,176	5,938	5,992	67,532
	作業日数	日	20	21	21	21	20	19	22	21	19	18	18	20	240
	岩石	t	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
	コンクリート	t	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	7
	金属物	t	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	ケージ・アル屑	t	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	84
	トラム缶	本	0	21	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	84
特殊前処理	処理作業量	t	27	28	27	28	27	28	27	28	27	28	27	28	330
陸上・海上輸送	運航停止項目	日													37
	休航期間及び日数	日			10日(予備)										19
	運航日数	t	21	23	16	17	23	16	16	22	20	8	20	5,992	221
	輸送量	t	6,366	6,382	5,440	5,600	6,580	5,136	4,922	6,366	6,634	2,176	5,938	5,992	67,532
	運転停止項目	日													50
	1号炉	停止期間及び日数	日	30	31	25	26	31	24	30	31	23	8	28	315
	2号炉	停止期間及び日数	日			10日(予備)									46
	稼働日数	日	30	31	25	26	31	24	23	30	31	12	28	28	319
	稼働日数	日	30	31	25	26	31	24	23	30	31	8	28	28	315
	稼働日数	日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
中間処理	稼働日数	日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	稼働日数	日	5,880	6,076	4,900	5,096	6,076	4,704	4,508	5,880	6,076	1,960	5,488	5,488	62,132
	稼働日数	日	3日	14日	3日	3日	14日	14日	3日	3日	27	19日	3日	3日	65
	稼働日数	日	27	17	30	28	24	24	23	27	31	12	25	28	300
	稼働日数	日	486	306	540	504	504	432	414	486	558	216	450	504	5,400
	稼働日数	日	6,366	6,382	5,440	5,600	6,580	5,136	4,922	6,366	6,634	2,176	5,938	5,992	67,532
	稼働日数	日	1,030	1,033	879	905	1,064	830	796	1,030	1,073	352	960	969	10,921
	稼働日数	日	1,859	1,864	1,588	1,635	1,921	1,500	1,437	1,859	1,937	635	1,734	1,750	19,719
	稼働日数	日	6,767	6,784	5,783	5,953	6,995	5,460	5,232	6,767	7,052	2,313	6,312	6,369	71,787
	稼働日数	日	5,086	5,099	4,347	4,474	5,257	4,104	3,933	5,086	5,301	1,739	4,744	4,788	53,958
水洗浄処理 ※	外部蒸気送り量	t	4,992	5,159	4,160	4,327	5,159	3,994	3,827	4,992	5,159	1,664	4,659	4,659	52,750
	外部蒸気送り量	t	1,100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,100
	外部蒸気送り量	t	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,000
	外部蒸気送り量	t	0	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,000
	外部蒸気送り量	t	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外部蒸気送り量	t	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外部蒸気送り量	t	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外部蒸気送り量	t	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外部蒸気送り量	t	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外部蒸気送り量	t	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高度排水	運転停止項目	日													338
	運転停止項目	日	30	27	30	31	31	30	31	26	27.5	27.5	16	31	338
	運転停止項目	日	2,400	2,160	2,400	2,480	2,480	2,400	2,480	2,050	2,200	2,200	1,280	2,480	27,040
	運転停止項目	日	30	27	30	31	31	30	31	26	27.5	27.5	16	31	338
	運転停止項目	日	2,400	2,160	2,400	2,480	2,480	2,400	2,480	2,050	2,200	2,200	1,280	2,480	27,040
	運転停止項目	日	30	27	30	31	31	30	31	26	27.5	27.5	16	31	338
	運転停止項目	日	2,400	2,160	2,400	2,480	2,480	2,400	2,480	2,050	2,200	2,200	1,280	2,480	27,040
	運転停止項目	日	30	27	30	31	31	30	31	26	27.5	27.5	16	31	338
	運転停止項目	日	2,400	2,160	2,400	2,480	2,480	2,400	2,480	2,050	2,200	2,200	1,280	2,480	27,040
	運転停止項目	日	30	27	30	31	31	30	31	26	27.5	27.5	16	31	338

※ 水洗浄処理の稼働量・運搬量・処理量については、土壌の含水率は、掘削時から一定とした。

表3 副成物の有効利用計画

(単位:t)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成23年度の実績
豊島側	金属類	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	7	実績値 7.85t/年
	鉄	59	59	50	52	61	47	45	59	61	20	55	55	623	約9.23kg/t(処理量)
直島側	銅	75	77	62	65	77	60	57	75	77	25	70	70	790	約12.7kg/t(溶融処理量)
	アルミ	41	42	34	35	42	33	31	41	42	14	38	38	431	約6.94kg/t(溶融処理量)
	溶融飛灰	226	233	188	195	233	180	173	226	233	75	210	210	2,382	約38.4kg/t(溶融処理量)
	溶融スラグ	3,075	3,177	2,562	2,665	3,177	2,460	2,357	3,075	3,177	1,025	2,870	2,870	32,490	約0.523t/t(溶融処理量)
	粗大スラグ	553	571	461	479	571	442	424	553	571	184	516	516	5,841	約94kg/t(溶融処理量)
	シルト状スラグ	359	371	299	311	371	287	275	359	371	120	335	335	3,793	約61.1kg/t(溶融処理量)
	清掃ダスト	0	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	33	66	約1.06kg/t(溶融処理量)
	仮置土	321	202	357	333	333	285	274	321	369	143	297	333	3,568	約0.661t/t(高温熱処理量)

1) 副成物有効利用計画量は、それぞれの発生量である。

2) 鉄、銅、アルミは一般競争入札により販売する。

3) 粗大スラグは、平成18年10月から有効利用しており、製砂スラグに混合できないものは、溶融炉下り用スラグとして再溶融、又はセメントの原料、製錬珪砂代替品等として有効利用する。

4) シルト状スラグは、平成19年3月からセメントの原料として有効利用している。

5) 清掃ダストは、平成19年8月から製錬珪砂代替品等として有効利用している。

6) 仮置土は、平成21年2月からロータリーキルン炉により高温熱処理し、セメントの原料として有効利用している。

表4 環境計測、周辺環境モニタリング及び作業環境測定計画

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
豊島	環境計測	沈砂池1,2		○										沈砂池1については、放流の都度実施		
		高度排水処理施設													必要に応じて実施	
		極集塵分離装置													気象については、必要に応じて適宜実施	
		掘削・運搬	敷地境界							○						
			敷地境界							○						
			敷地境界							○						
		掘削・運搬	敷地境界							○						
			敷地境界							○						
			敷地境界							○						
		掘削・運搬	地下水	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○は水位測定、◎は合わせて水質分析も実施 水質は年4回、底質は年1回(夏季) 必要に応じて実施
			水質汚濁		○			○			○					
			生態系													
		豊島	周辺環境モニタリング	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
定期監視				◎		○	○	○	○	◎		○	○	○	○はダイオキシン類、粉塵、◎は合わせて重金属等も実施	
個人暴露量				○		○	○	○	○	○		○	○	○	必要に応じて実施	
騒音																
常時監視	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
騒音																
常時監視	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
騒音																
常時監視	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
騒音																
豊島	作業環境測定	掘削・運搬	中間保管・梱包施設	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			騒音													
			常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		掘削・運搬	高度排水処理施設	常時監視												
			騒音													
			常時監視													
		掘削・運搬	敷地境界	常時監視												
			敷地境界	常時監視												
			敷地境界	常時監視												
			敷地境界	常時監視												
掘削・運搬	煙突(ばいじん)	煙突	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	煙突(CO)	煙突														
	煙突(ガスターン類)	煙突														
	煙突	煙突	○1	○2							○1	○2				
直島	環境計測	中間処理施設	水質汚濁												大雨が長く続き、雨水を海域へ排出する場合(年1回) 必要に応じて実施	
			騒音・振動、塵埃													
			最大着地点													
			最大着地点													
			排水口													
			水質・底質													
			最大着地点													
			土壌													
			常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			定期監視													
直島	周辺環境モニタリング	中間処理施設	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
			騒音													
直島	周辺環境モニタリング	作業環境測定	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
			騒音													
輸送	周辺環境モニタリング	水質汚濁												水質、底質それぞれ、年1回		

平成24年度 豊島廃棄物等処理事業年度計画について

1 運転・維持管理計画

平成23年度2月末実績及び平成24年度の年間処理計画は表1のとおりであり、平成24年度における掘削、中間保管・梱包、特殊前処理物処理、陸上・海上輸送、中間処理及び高度排水処理の各業務の年度計画は、表2のとおりである。

計画作成に当たっては、中間処理施設での年間処理量（第27回管理委員会（H23.12.24）で試算した仮置き土等土壌主体廃棄物の別途処理を行う処理計画量）を基礎に豊島処分地での掘削量や廃棄物運搬船の航行日数を調整して作成するものとする。

溶融炉の1炉・1日当たりの処理量を98t（今後、土壌比率と溶融処理量の関係について調査することとしており、その結果を踏まえて処理量の見直しを行う。）、2炉の延べ運転日数を定検を除いた634日としたこと、また、キルン炉処理を1日当たり18t、運転日数を300日としたことから、平成24年度の豊島における掘削量は67,532t、作業日数は250日となり、廃棄物運搬船の運航日数は221日となる。

また、ユーティリティの使用量については平成23年度の実績値から、特殊前処理物処理量については平成15年～23年度の実績値から推計している。

直下汚染土壌の水洗浄処理については、平成24年度は、処分地H測線東側区域のみ掘削を行い、輸送量及び処理量は2,000tを予定している。

高度排水処理施設の運転は、生物処理設備の点検・整備を実施するため、運転日数は338日で、1日当たりの平均処理量を80m³とし、27,040m³の処理を予定している。

表1 年間処理計画

区分	平成23年度		平成24年度	
	計画	2月末実績 (3月末推計)	計画	計画
中間 処理	2炉延べ運転日数	625	549	634
	処理量(t/1炉・日)	105	106	98
	年間処理量(t)	65,625	58,403	62,132
	運転日数	299	271	300
溶融炉	1炉延べ運転日数	20	18	18
	処理量(t/日)	5,980	4,972	5,400
	年間処理量(t)	71,605	63,375	67,532
	年間処理量(t)	108	252	129
特殊前処理				2,000
水洗浄処理				69,661
処理量合計(t)	100,613	63,627	(70,706)	

2 副成物の有効利用計画

平成24年度における溶融飛灰や溶融スラグなどの副成物の有効利用計画は、表3のとおり、平成23年度の実績を基礎に運転日数や処理量を考慮して作成した。

3 環境計測、周辺環境モニタリング及び作業環境測定計画

平成24年度における環境計測、周辺環境モニタリング及び作業環境測定計画は、これまでの調査結果などを踏まえ、表4のとおり作成した。

表3 副成物の有効利用計画

(単位:t)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成23年度の実績
豊島側	金属類	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	7	実績値 7.85t/年
	鉄	59	59	50	52	61	47	45	59	61	20	55	55	623	約9.23kg/t(処理量)
直島側	銅	75	77	62	65	77	60	57	75	77	25	70	70	790	約12.7kg/t(溶融処理量)
	アルミ	41	42	34	35	42	33	31	41	42	14	38	38	431	約6.94kg/t(溶融処理量)
	溶融飛灰	226	233	188	195	233	180	173	226	233	75	210	210	2,382	約38.4kg/t(溶融処理量)
	溶融スラグ	3,075	3,177	2,562	2,665	3,177	2,460	2,357	3,075	3,177	1,025	2,870	2,870	32,490	約0.523t/t(溶融処理量)
	粗大スラグ	553	571	461	479	571	442	424	553	571	184	516	516	5,841	約94kg/t(溶融処理量)
	シルト状スラグ	359	371	299	311	371	287	275	359	371	120	335	335	3,793	約61.1kg/t(溶融処理量)
	清掃ダスト	0	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	33	66	約1.06kg/t(溶融処理量)
	仮置土	321	202	357	333	333	285	274	321	369	143	297	333	3,568	約0.661t/t(高温熱処理量)

1) 副成物有効利用計画量は、それぞれの発生量である。

2) 鉄、銅、アルミは一般競争入札により販売する。

3) 粗大スラグは、平成18年10月から有効利用しており、製砂スラグに混合できないものは、溶融炉下り用スラグとして再溶融、又はセメントの原料、製錬珪砂代替品等として有効利用する。

4) シルト状スラグは、平成19年3月からセメントの原料として有効利用している。

5) 清掃ダストは、平成19年8月から製錬珪砂代替品等として有効利用している。

6) 仮置土は、平成21年2月からロータリーキルン炉により高温熱処理し、セメントの原料として有効利用している。

